

北海道大学小児科
平成16(2004)年度
業績集

2005年11月発行

北海道大学小児科平成16(2004)年度業績集 目次

2004年版北大小児科年報の発刊にあたって.....	3
北海道大学小児科学内	
免疫グループ.....	4
感染グループ.....	9
血液グループ.....	12
神経グループ.....	16
腎臓グループ.....	23
内分泌グループ.....	25
循環器グループ.....	29
新生児グループ.....	35
代謝グループ.....	39
遺伝染色体グループ.....	44
関連病院	
市立札幌病院.....	45
札幌厚生病院.....	49
幌南病院.....	53
天使病院.....	57
北海道社会保険病院.....	60
手稲溪仁会病院.....	63
北海道がんセンター.....	66
JR 札幌鉄道病院.....	70
北海道医療大学医科歯科クリニック.....	74
愛育病院.....	77
札幌北楡病院.....	80
楡の会こどもクリニック.....	83
江別市立病院.....	86
市立美唄病院.....	89
市立三笠総合病院.....	92
栗山赤十字病院.....	95
市立小樽病院.....	98
倶知安厚生病院.....	101
岩内協会病院.....	104
市立千歳市民病院.....	107
恵み野病院.....	110

王子総合病院.....	113
白老町立国保病院	116
日鋼記念病院.....	119
新日鐵室蘭総合病院.....	122
伊達赤十字病院	125
市立旭川病院.....	128
北見赤十字病院	131
美幌町立国保病院	134
函館中央病院.....	137
函館五稜郭病院	140
帯広協会病院.....	144
帯広厚生病院.....	147
池田町立病院.....	150
釧路赤十字病院	153
釧路労災病院.....	156
町立中標津病院	159
市立根室病院.....	162

2004年版北大小児科年報の発刊にあたって

昨年から始めた、一年を客観的に省みる北海道大学小児科 2004 年の年報を今年もお届けいたします。今年の最大のイベントは北大小児科 80 周年記念事業を行ったことです。幸いにも関係各位のご理解とご協力で、格調高い立派な講演会と盛大な祝賀会を執り行うことができました。改めて御礼申し上げます。この年報とは別に、北大小児科 80 周年記念誌も発刊の予定ですので、どうぞご期待下さい。

昨年も書きましたが、この年報だけで自分たちのしてきた仕事の量と質の全てを評価する事は不可能ですが、一年を振り返る機会にさせていただきたいと思います。その事が自らの反省、発奮の原動力となり、またお互いの仕事を理解する助けにもなって北大小児科の発展に寄与できれば幸いです。昨年は、準備期間が慌ただしくて関連病院の記載が不十分で残念でしたが、今回から各病院の仕事ぶりの特徴が毎年良く読みとれる様になると思っております。

財政上の問題もあって、今年から CDR で作成してみました。ご批判もあると思いますが、時代の流れとご理解願えれば幸いです。

今後も毎年この年報は継続するつもりですが、内容などに関してご意見、ご批判がありましたら今後の参考にさせていただきたいと思っております。

北海道大学大学院医学研究科

病態制御学専攻生殖発達医学講座小児科学分野教授

有賀 正

免疫グループ

所属メンバー

有賀 正 (教授、昭和53年卒)
岡野素彦 (講師、昭和52年卒)
川村信明 (講師・助教授 (H16.11月) 昭和54年卒)
波多野典一 (医員・客員助手 (H16.4月-9月) 平成4年卒)
戸板成昭 (大学院生、平成8年卒)
Reza Shiari (大学院留学生、平成13年入学)

外来患者数 (免疫アレルギー): 726人/年

外来患者疾患別割合

アレルギー疾患: 13.6% (Bronchial Asthma, Atopic dermatitis, Food allergy, Drug allergy, FDEIA,...)
リウマチ性疾患: 54.9% (JIA, SLE, DM, SS, MCTD, PN,...)
免疫不全症: 23.9% (XSCID, ADA deficiency, HIMS, WAS, CGD, XLA, DiGeorge S, CVID, HIES, Periodic Fever,...)
その他: 7.5%

入院患者数: 16人/年

疾患別入院患者数

若年性特発性関節炎: 4名 (マクロファージ活性化症候群合併1名)
若年性皮膚筋炎: 2名 (間質性肺炎合併2名)
炎症性腸疾患 (疑い): 1名
Castleman 病: 1名 (外科的摘除)
慢性肉芽腫症: 3名 (肝膿瘍外科的切除1名、真菌性硬膜炎1名)
ADA 欠損症: 2名 (造血幹細胞を標的とした遺伝子治療2名)
X連鎖重症複合免疫不全症: 2名 (臍帯血幹細胞移植2名)
重症複合免疫不全症 1名 (臍帯血幹細胞移植)

発表論文

有賀 正: X-SCID 遺伝子治療に伴った白血病様副作用; 想定される機序とその対策、小児科 45: 197-202, 2004

有賀 正: 原発性免疫不全症の遺伝子治療における白血病発症の機序。臨床免疫、41:

719-723, 2004

有賀 正：生体防衛と免疫不全疾患；小児科学（第9版）五十嵐 隆 編集、文光堂、東京都、pp373-392、2004

有賀 正：検査編、A. 血液検査。DNA 診断。今日の小児診断指針第4版、五十嵐 隆、大園恵一、高橋孝雄 編集、医学書院、東京都、pp489-495, 2004

有賀 正、崎山幸雄:Adenosine deaminase (ADA) deficiency (OMIM 102700): アデノシンデアミナーゼ欠損症。目で見える骨系統疾患 2004、III. 小児科医が知っておきたい骨系統疾患、小児内科 36: 378-381、増刊号 2004

Ariga T, Nakajima M, Yoshida J, Yamato K, Nagatoshi Y, Yanai F, Caviles AP, Nelson DL and Sakiyama Y: Confirming or excluding the diagnosis of Wiskott-Aldrich syndrome in children with thrombocytopenia of an unknown etiology. *J Ped Hem Onc* 26: 435-440, 2004

Horiuchi K, Ariga T, Fujioka H, Kawashima K, Yamamoto Y, Ikawa H, Sakiyama Y and Sugihara T: Treacher Collins syndrome with craniosynostosis, choanal atresia and esophageal regurgitation caused by a novel nonsense mutation in the TCOF1. *Am J Med Genet* 128A: 173-175, 2004

Foucault C, Lepidi H, Poujet-Abadie F, Granel B, Foblot F, Ariga T and Raoult D: Q fever and lymphadenopathy: report of four new cases and review. *Eur J Clin Microbiol Infect Dis*, 23: 759-764, 2004

Chien YH, Hwu WL, Ariga T, Chang KW, Yang YH, Lin KH and Chiang BL: Molecular diagnosis of Wiskott-Aldrich syndrome in Taiwan. *J Microbiol Immunol Infect.* 37: 276-81, 2004

岡野素彦：免疫不全状態にある患児における抗生剤の使い方について、小児科診療 Questions & Answers 追録第38号、赤塚順一、小佐野満、河野三郎、白木和夫、前川喜平、三河春樹編、六法出版社、名古屋、pp158-161、2004

岡野素彦：慢性活動性EBウイルス感染症(CAEBV)の診断指針、第10回ヘルペス感染症フォーラム、ヘルペス感染症研究会編、McCann Healthcare Publishing、東京、pp80-81、

2004

茂田士郎、河 敬世、岡野素彦：EB ウイルス関連疾患の診断と治療法、ヘルペス感染症研究会編、第 10 回ヘルペス感染症フォーラム、McCann Healthcare Publishing、東京、p89、2004

川村信明、小林邦彦：「原発性免疫不全症候群」、特別巻 1 新生児・小児・高齢者の皮膚疾患、最新皮膚科学大系、玉置邦彦 編、中山書店、pp98-107、2004

川村信明、小林邦彦：インテグリンの活性化障害による白血球接着不全症、臨床免疫、42: 11-15, 2004

川村信明：全身性自己免疫疾患の責任遺伝子 FOXP3 による T リンパ球調節機能の解析、平成 14 ～ 15 年度科学研究費補助金（基盤研究 C-2）研究成果報告書、2004

戸板成昭、波多野典一、小林一郎、川村信明、岡野素彦、小林邦彦、村松昌裕、横井匡彦、大野重昭：シクロスポリン療法施行中に視神経乳頭を呈した小児皮膚筋炎の 1 例、小児科臨床、57: 1111-1114, 2004

戸板成昭、有賀 正：IgG サブクラス欠損症、IgA 欠損症。小児内科 36, 1783-1786, 2004

戸板成昭、波多野典一、小林一郎、川村信明、岡野素彦、小林邦彦、佐藤大介、信太 知、梶井直文：年長児に発症した若年性特発性関節炎（リウマチ因子陰性多関節炎）の 2 例、臨床小児医学、52: 29-33, 2004

戸板成昭、波多野典一、山田雅文、小林良二、小林一郎、川村信明、岡野素彦、小林邦彦：Non-Hodgkin ' s lymphoma を合併した DNA Ligase （LIG4）syndrome の一例、厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業、原発性免疫不全症候群に関する調査研究、平成 15 年度総括・分担研究報告書、pp39-42, 2004

小林邦彦、川村信明、小林一郎、窪田 満：AIE-75 遺伝子：粘膜上皮細胞の分化発達と刷子縁形成に関わる分子の発現制御機構、平成 14 ～ 15 年度科学研究費補助金（基盤研究 B-2）研究成果報告書、2004

有賀 正：原発性免疫不全症に対する新しい治療の流れー血液幹細胞移植と遺伝子治療の現状と問題点；先端医療シリーズ 34、小児科の新しい流れ、柳澤正義、衛藤義勝、五十嵐

隆 編集、先端医療技術研究所、東京都、pp349-353、2005

Horiuchi K, Ariga T, Fujioka H, Kawashima K, Yamamoto Y, Ikawa H and Sakiyama Y: Mutational Analysis of the *TCOF1* Gene in 11 Japanese Patients with Treacher Collins Syndrome. *Am J Med Genet* 134A: 363-367, 2005

Fujioka H, Ariga T, Horiuchi K, Otsu M, Igawa H, Kawashima K, Sugihara T and Sakiyama Y: Molecular analysis of nonsyndromic preaxial polydactyly; preaxial polydactyly type-IV and preaxial polydactyly type-I. *Clin Genet* 67: 429-433, 2005.

岡野素彦：いわゆる慢性活動性 EB ウイルス感染症の疾患概念と今日的診断指針、血液フロンティア、15 (1): 31-37, 2005

波多野典一、戸板成昭、小林良二、小林一郎、川村信明、岡野素彦、小林邦彦、有賀 正：骨髄非破壊的臍帯血移植を施行した X-SCID の免疫機能再建過程、厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業、原発性免疫不全症候群に関する調査研究、平成 16 年度総括・分担研究報告書、pp43-46, 2005

大津 真、前山義博、中島 督、貴田みゆき、戸板成昭、波多野典一、川村信明、岡野素彦、立澤 宰、小野寺雅史、Fabio Candotti、Michael Hershfield、崎山幸雄、有賀 正：アデノシンデアミナーゼ (ADA) 欠損症における血液幹細胞を標的とした遺伝子治療臨床研究、厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業、原発性免疫不全症候群に関する調査研究、平成 16 年度総括・分担研究報告書、pp53-56, 2005

レザ・シアリ：小児シェーグレン症候群における抗 フォドリン自己抗体が認識するエピトープ解析、北海道医学雑誌、第 80 巻第 5 号、2005

Ariga T: Gene therapy for primary immunodeficiency diseases; recent progress and misgivings. *Current Pharmaceutical Design*, in press.

学会発表 (全国・国際学会)

吉田佳代、大柳尚彦、依田弥奈子、吉村英敦、大崎雅也、有賀 正、崎山幸雄：慢性肉芽腫症に McLeod 症候群を合併した一例、第 107 回日本小児科学会学術集会、岡山、2004

Otsu M, Ariga T, Maeyama Y, Yoshida J, Nakajima S, Kida M, Toita N, Hatano N,

Kawamura N, Okano M, Kobayashi R, Tatsuzawa O, Onodera M, Candotti F, Kobayashi K and Sakiyama Y: A Clinical Trial in Japan of Retroviral-Mediated Gene Transfer to Bone Marrow CD34+ Cells as a Treatment of Adenosine Deaminase (ADA)-Deficiency. The American Society of Gene Therapy 's 7th Annual Meeting, Minneapolis, 2004

中島 督、有賀 正、山口晃司、大津 真、Nelson DL、崎山幸雄：Flow cytometry を用いた末梢血単核球内 WASP 分子の構造的、機能的解析の可能性、日本免疫学会総会学術集会、札幌、2004.

波多野典一、戸板成昭、小杉山清隆、浜崎和朗、窪田 満、小林一郎、川村信明、岡野素彦、石川信義、小林邦彦、有賀 正：オルニチントランスカルバミラーゼ欠損症（OTCD）を伴った X 連鎖慢性肉芽腫症（XCGD）の遺伝子欠損範囲の決定、第 12 回食細胞機能異常症研究会、東京、2004

波多野典一、戸板成昭、小林良二、小林一郎、川村信明、岡野素彦、小林邦彦、有賀 正：骨髄非破壊的臍帯血移植を施行した X-SCID の免疫機能再建過程、厚生省特定疾患血液系疾患調査研究班原発性免疫不全症候群分科会班会議、東京、2004

学会発表（地方学会）

中島 督、松井英人、貴田みゆき、崎山幸雄、有賀 正：一部の末梢血単核球が WASP 陽性を示した WAS 症例の解析、第 21 回北海道小児血液研究会、札幌、2004

川村信明他、北海道小児リウマチ性疾患研究会：アンケート結果報告「JIA」、第 16 回北海道小児リウマチ性疾患研究会、札幌、2004

戸板成昭、波多野典一、山田雅文、小林良二、小林一郎、川村信明、岡野素彦、小林邦彦、有賀 正：DNA Ligase IV (LIG4) syndrome の本邦初症例、第 56 回北日本小児科学会、盛岡、2004

戸板成昭、波多野典一、小林一郎、川村信明、岡野素彦、小林邦彦、有賀 正：若年性特発性関節炎（JIA）における血清 MMP-3 の測定意義、第 17 回北海道小児リウマチ性疾患研究会、札幌、2005

感染グループ

所属メンバー

菊田英明 (助教授、昭和51年卒) 平成16年10月より東栄病院に転出
石黒信久 (助手、昭和59年卒) 平成16年6月より感染管理部に所属
遠藤理香 (大学院生、平成8年卒)
海老原敬 (医員、平成10年卒)
馬 暁明 (外国人特別研究員)
白月 遼 (大学院生、平成16年北大理学部卒業) 平成16年9月末にて大学院中退
旭川医科大学編入

臨床

外来患者数：60名

発表論文(英文)

1. Ebihara, T., R. Endo, H. Kikuta, N. Ishiguro, H. Ishiko, M. Hara, Y. Takahashi and K. Kobayashi: Human metapneumovirus infection in Japanese children. J Clin Microbiol 42:126-32, 2004
2. Ebihara, T., R. Endo, H. Kikuta, N. Ishiguro, H. Ishiko and K. Kobayashi: Comparison of the seroprevalence of human metapneumovirus and human respiratory syncytial virus. J Med Virol 72:304-6, 2004
3. Endo, R., H. Kikuta, T. Ebihara, N. Ishiguro and K. Kobayashi: Possible involvement in oncogenesis of a single base mutation in an internal ribosome entry site of Epstein-Barr nuclear antigen 1 mRNA. J Med Virol 72:630-4, 2004
4. Ishiguro, N., A. Takada, M. Yoshioka, X. Ma, H. Kikuta, H. Kida and K. Kobayashi: Induction of interferon-inducible protein-10 and monokine induced by interferon-gamma from human endothelial cells infected with Influenza A virus. Arch Virol 149:17-34, 2004
5. Endo R, Yoshioka M, Ebihara T, Ishiguro N, Kikuta H and K Kobayashi: Clonal

expansion of multiphenotypic Epstein-Barr virus-infected lymphocytes in chronic active Epstein-Barr virus infection. Medical Hypotheses 63: 582-7, 2004

6. Ishiguro N, Ebihara T, Endo R, Ma X, Kikuta H, Ishiko H and K Kobayashi: High Genetic Diversity of the Attachment (G) Protein of Human Metapneumovirus. J. Clin. Microbiol. 42 3406-14, 2004

発表論文（邦文）

1. 菊田英明: ヒト・メタニューモウイルス、感染・炎症・免疫 34 巻 1 号 Page 82-87 (2004.4)
2. 菊田英明: 伝染性紅斑、1351頁 - 1352頁 (水島 裕、黒川清編: 疾患・症状別今日の治療と看護、改訂第2版、南江堂、東京) 2004

学会発表（全国学会）

第107回日本小児科学会シンポジウム「これからの感染症を語る」(2004年4月10日: 岡山)小児ヒトメタニューモウイルス感染症のウイルス学的、臨床学的検討
菊田英明

第28回日本小児皮膚科学会 シンポジウム3 (2004年5月30日: 福島)
「小児のリンフォーマ <免疫不全とリンパ腫>」
菊田英明

第36回日本小児感染症学会総会内
第20回ICD講習会「国際感染症と病院対策」(2004年11月12日: 東京)
小児ヒトメタニューモウイルス感染症のウイルス学的、臨床学的検討
菊田英明

第52回日本ウイルス学会学術集会・総会 一般演題 (2004年11月22日: 横浜)
ヒト・メタニューモウイルスのG(attachment)蛋白塩基配列の多様性
石黒信久

第36回日本小児感染症学会総会 一般演題 (2004年11月12日: 東京)

ヒト・メタニューモウイルスの G(attachment)蛋白塩基配列の多様性
石黒信久

第 4 回人獣共通感染症制圧のための国際シンポジウム「新興ウイルス感染症」 ポスター
セッション
(2004 年 6 月 11 日：札幌)

Human Metapneumovirus infection in Japanese children
遠藤理香

第 52 回日本ウイルス学会学術集会・総会 一般演題 (2004 年 11 月 22 日：横浜)
喘息様気管支炎 3 名からの新ヒト・コロナウイルス HCoV-NL63 の検出
海老原敬

第 36 回日本小児感染症学会総会 一般演題 (2004 年 11 月 12 日：東京)
喘鳴を呈する小児における新しく発見されたコロナウイルス HCoV-NL63 の検討
海老原敬

学会発表 (地方学会)

第 7 回北海道ウイルス感染症セミナーの会 (2004 年 9 月 11 日：札幌) ヒト・メタニューモ
ウイルス感染症
菊田英明

第 5 回北海道川崎病研究会 (2004 年 9 月 11 日：札幌)
川崎病における S100 蛋白遺伝子の発現
海老原敬

血液グループ

所属メンバー

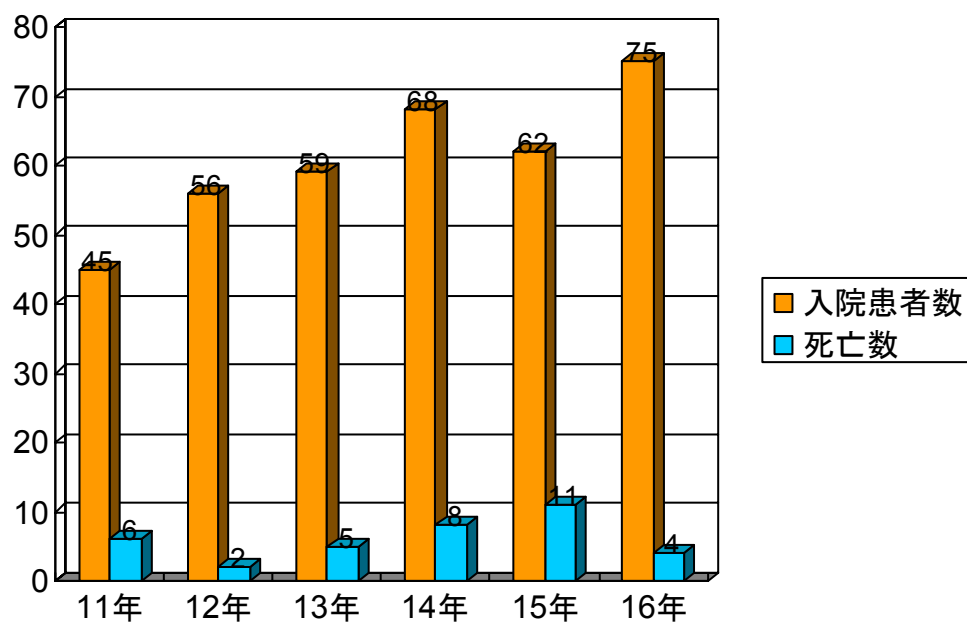
- ・小林良二（講師、昭和59年卒）
- ・井口晶裕（医員、平成2年卒）
- ・中嶋雅秀（大学院生、平成8年卒）
- ・佐藤智信（大学院生、平成9年卒）

外来患者数 1,061人/年

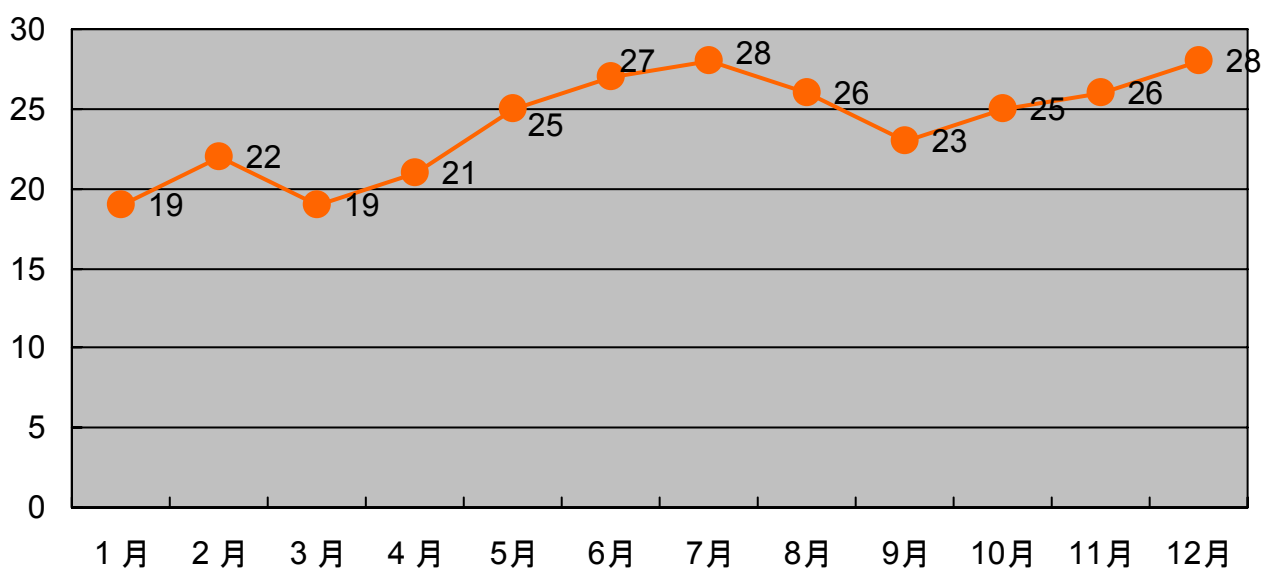
入院患者数 75人/年

その他の特色ある診療内容

入院患者数の推移



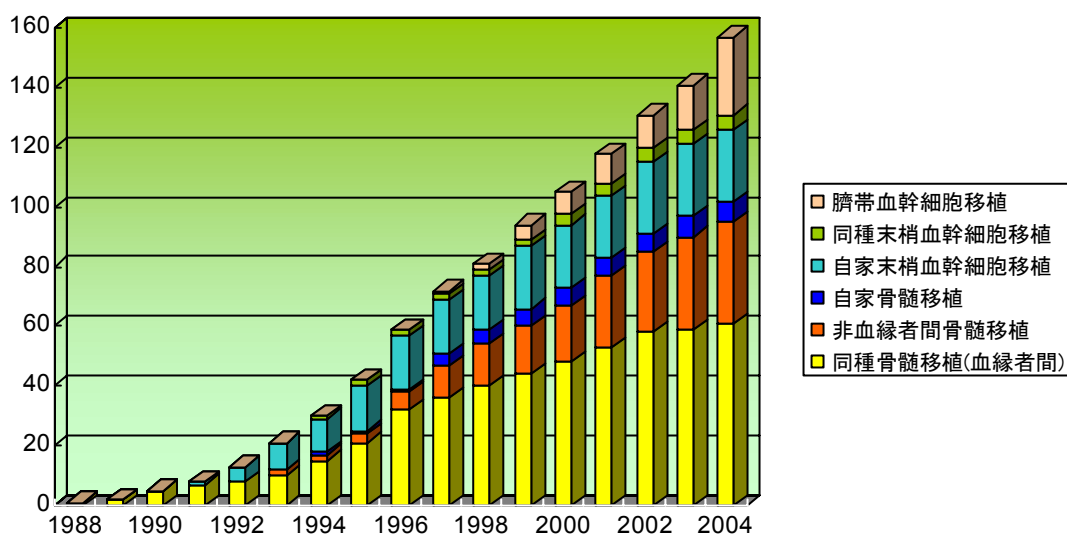
各月1日現在の在院患者数の推移



初発患者の疾患

	平成 11 年	平成 12 年	平成 13 年	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年
ALL	6	9	10	9	7	10
AML	3	0	2	5	4	4
NHL	2	1	2	2	1	0
A.A.	2	3	3	3	0	3
Neuroblastoma	0	4	1	4	5	5
Wilms tumor	2	2	1	2	1	3
Rhabdomyosarcoma	1	0	1	1	1	0
Hepatoblastoma	1	1	1	0	0	1
PNET	0	0	3	0	0	0
LCH	2	0	1	0	0	1
Donor	4	6	5	6	1	2

移植



	平成 11 年	平成 12 年	平成 13 年	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年
Allo BMT(unrelated)	2	3	5	3	4	3
Allo BMT(related)	4	4	5	5	1	2
Allo PBST	0	2	0	1	0	0
CBSCT	3	2	3	1	4	11
Auto BMT	1	0	0	0	1	0
Auto PBST	3	0	0	3	0	0

発表論文

1. Tsutsumi Y, Tanaka J, Miura Y, Toubai T, Kato N, Fujisawa F, Toyoshima N, Ota S, Mori A, Yonezumi M, Chima K, Kondo T, Hashino S, Kobayashi R, Masauji N, Kasai M, Asaka M and Imamura M: Molecular analysis of T-cell repertoire in patients with graft-versus-host disease after allogeneic stem cell transplantation. *Leukemia and Lymphoma* 45: 481-488, 2004
2. Mino E, Kobayashi R, Yoshida M, Suzuki Y, Yamada M and Kobayashi K: Umbilical cord blood stem cell transplantation from unrelated HLA-matched donor in an infant with severe congenital neutropenia. *Bone Marrow Transplantation* 33: 969-971, 2004
3. 佐藤智信、中嶋雅秀、井口晶裕、小林良二、小林邦彦: 生体部分肝移植後に発症した急性前骨髄性白血病. *臨床血液* 45: 233-237, 2004
4. Kobayashi R, Iguchi A, Nakajima M, Sato T, Yoshida M, Kaneda M, Suzuki Y, Mino E, Kuroki F and Kobayashi K: Hyponatremia and syndrome of inappropriate antidiuretic hormone secretion complicating stem cell transplantation. *Bone Marrow Transplantation* 34: 975-979, 2004
5. 藤田祥二、古賀康嗣、浜田弘巳、盛一享徳、小林良二: PET で特徴的画像を呈し、化学療法後に完全切除可能となった肝未分化肉腫の 1 例. *小児内科* 36: 1506-1511, 2004
6. Imashuku S, Ishida S, Koike K, Ichikawa M, Minato T, Suzuki Y, Kobayashi R and Morimoto A: for the Japan LCH Study Group: Cerebellar Ataxia in Pediatric Patients With Langerhans Cell Histiocytosis. *J Pediatr Hematol Oncol* 26: 735-739, 2004
7. 藤田祥二、寺本 忍、伊東広臨、阿部修司、遠藤満智子、石崎彰一、小林良二: 免疫寛容導入療法を施行した重症血友病 B の 1 例. *臨床小児医学* 52: 33-36, 2004

学会発表

全国学会

1. 造血幹細胞移植に合併した低ナトリウム血症および SIADH の検討 小林良二他 第 66 回日本血液学会総会、第 46 回日本臨床血液学会総会、2004 年 9 月 17 日
2. 造血幹細胞移植後再発症例に対する化学療法後の感染関連合併症についての検討 井口晶裕他 第 46 回日本小児血液学会、2004 年 11 月 22 日
3. 頸部原発神経芽細胞腫の 2 例 中嶋雅秀他 第 20 回日本小児がん学会、2004 年 11 月 21 日
4. 造血幹細胞移植後の好酸球増加症例の検討 佐藤智信他 第 27 回日本造血細胞移植学会、2004 年 12 月 16 日

地方学会

1. 肝不全を合併した Wilms 腫瘍の 1 例 井口晶裕他 第 29 回北海道小児がん研究会、2004 年 3 月 5 日
2. 骨髄非破壊的前処置による非血縁者間臍帯血移植を施行した X 連鎖重症複合免疫不全症(X-SCID)の 1 例 中嶋雅秀他 第 21 回北海道小児血液研究会、2004 年 10 月 23 日

神経グループ

平成16(2004)年4月～平成17(2005)年3月

所属メンバー

斉藤伸治 (助手、昭和60年卒)
須藤 章 (医員、平成3年卒) 平成17年3月まで
白石秀明 (医員、平成4年卒)
朝比奈直子 (大学院博士課程2年、平成9年卒)
江川 潔 (大学院博士課程1年、平成10年卒)
香坂 忍 (週1回外来担当、昭和52年卒)

入院患者

のべ計79人

<疾患別>

てんかん・けいれん性疾患：41例

神経筋疾患：12例

ミトコンドリア病：3例

代謝・遺伝性疾患：4例

重症心身障害児：8例

片頭痛：2例

脳腫瘍：2例

精神・心理疾患：1例

その他：6例

<検査別>

脳磁図(MEG)：5例

長時間脳波：37例

SpO₂, EtCO₂ モニター：4例

全身麻酔下開放性筋生検：2例

レスパイト入院：6例

外来診療

新患患者数：216人 (約4.2人/週)

月曜・火曜神経外来(斉藤)：1203人

火曜神経外来(白石)：306人

水曜神経外来(須藤)：753人

水曜神経外来(香坂)：270人

(以上、神経専門外来合計 2532人)

神経処方外来（月、水午前）：958人
（以上の総計 3490人）（67.1人/週）

脳磁図解析件数50件

（内訳 TLE 5, FLE 8, PLE 1, OLE 2, SPE (focus unclassified) 12, LG 2, APBE 4, SMEI 1, AS 13, PWS 1, others (psychogenic) 1）

脳波検査総数（平成16年4月から平成17年3月）：外来808件、入院39件、計847件（北大病院脳波室での検査総数が1765件なので、全体の48%）

治研

レベチラセタム（抗てんかん薬：UCB Pharma）：2名

競争的外部資金・研究費

国立成育医療センター成育医療研究委託費（先天異常の遺伝子診断システムの開発に関する研究：奥山班）：斉藤伸治（分担研究者）「ブラダーウィリー症候群およびアンジェルマン症候群の系統的分子遺伝学的診断に関する研究」平成16年度研究経費：1,200千円

国立精神・神経センター精神・神経疾患研究委託費（精神遅滞をきたす遺伝性疾患のリーサーチ・リソースの整備と分子遺伝学的研究：後藤班）：斉藤伸治（分担研究者）「精神遅滞をきたす遺伝性疾患の分子遺伝学的研究」平成16年度研究経費：1,500千円

森永奉仕会奨励金（小児ミトコンドリア病の原因と治療に関する研究）：須藤 章、斉藤伸治：500千円。

学会発表

- 1) Saitoh S, Hosoki K, Takano K, Asahina N, Sudo S and Tonoki H: Mosaic paternally derived inv dup(15) may partially rescue the PWS phenotype with uniparental disomy. International Congress of Prader-Willi syndrome, 4/8-10/2004 (Christchurch, New Zealand)
- 2) Shiraishi H, Knake S, Stufflebeam SM, Ahlfors SP, Sudo A, Asahina N, Halgren E, Hatanaka K, Kohsaka S and Saitoh S: Dynamic statistical parametric mapping (dSPM) for analyzing the magnetoencephalographic epileptiform discharges in patients with epilepsy. 7th Annual Meeting of the Infantile Seizure Society - the International Symposium on Neuronal Migration Disorders and Childhood Epilepsies 4/16-17/2004 (Tokyo, Japan)
- 3) 白石秀明, Susanne Knake, Eric Halgren, Steven M. Stufflebeam, 須藤 章、斉藤伸治: Dynamic Statistical Parametric Mapping (dSPM)を用いた、てんかん発作時磁場

- 変化、Subclinical Discharge に対する検討、第 19 回日本生体磁気学会、平成 16 年 6 月 4-5 日 (徳島)
- 4) 斉藤伸治、朝比奈直子、岡嶋真紀、高野亨子、須藤 章：Angelman 症候群における *UBE3A* 変異、第 46 回日本小児神経学会、平成 16 年 7 月 15-17 日 (東京)
 - 5) 和田敬仁、呉 東進、塚田東子、金山 学、中居淑子、福嶋義光、斉藤伸治：家族性片麻痺性片頭痛および周期性失調症 2 型 4 家系における *CACNA1A* 遺伝子解析、第 46 回日本小児神経学会、平成 16 年 7 月 15-17 日 (東京)
 - 6) 須藤 章、江川 潔、朝比奈直子、白石秀明、斉藤伸治、佐竹 明、梶井直文：Panayiotopoulos 症候群 17 例の長期経過-北見赤十字病院小児科神経外来の症例-第 57 回てんかん懇話会、平成 16 年 9 月 18 日 (札幌)
 - 7) 江川 潔、朝比奈直子、白石秀明、須藤 章、斉藤伸治。診断に苦慮し、てんかんとして加療されていた vasovagal syncope の 1 例。第 57 回北海道てんかん懇話会、平成 16 年 9 月 18 日 (札幌)
 - 8) 須藤 章、佐竹 明、梶井直文、江川 潔、朝比奈直子、白石秀明、石川信義、斉藤伸治：Panayiotopoulos 症候群の治療経過と長期予後-第 38 回日本てんかん学会、平成 16 年 9 月 30 日～10 月 1 日 (静岡)
 - 9) 白石秀明, Susanne Knake, Eric Halgren, Steven M. Stufflebeam, 江川 潔、須藤 章, 香坂 忍, 斉藤伸治：Dynamic Statistical Parametric Mapping を用いた発作時磁場および Subclinical Discharge の検討、第 38 回日本てんかん学会、平成 16 年 9 月 30 日～10 月 1 日 (静岡)
 - 10) 香坂 忍、水上 晋、白石秀明、香坂雅子：全般性多棘徐波結合と睡眠紡錘波駆動に関する脳幹部興奮性変化の相違、第 38 回日本てんかん学会平成 16 年 9 月 30 日～10 月 1 日 (静岡)
 - 11) 斉藤伸治、細木華奈、江川 潔、白石秀明、須藤 章：Angelman 症候群における *UBE3A* 変異解析、第 49 回日本人類遺伝学会、平成 16 年 10 月 13-15 日 (東京)
 - 12) 和田敬仁、呉 東進、塚田東子、金山 学、中居淑子、福嶋義光、斉藤伸治：家族性片麻痺性片頭痛および周期性失調症 2 型の 6 家系における *CACNA1A* 遺伝子解析、第 49 回日本人類遺伝学会、平成 16 年 10 月 13-15 日 (東京)
 - 13) 斉藤伸治、細木華奈、高野亨子、朝比奈直子、須藤 章、外木秀文：父由来モザイク *inv dup(15)* を伴った母性片親性ダイソミーによる軽症 Prader-Willi 症候群の一例、第 27 回日本小児遺伝学会、平成 16 年 10 月 16 日 (東京)
 - 14) Saitoh S, Hosoki K, Takano K and Sudo A: Frequency and nature of Angelman syndrome *UBE3A* mutations in Japan. Annual Meeting of American Society of Human Genetics, 10/27-30/2004 (Toronto, Canada)
 - 15) Wada T, Go T, Tsukahara H, Kanayama M, Suzuki Y, Fukushima Y and Saitoh S: Clinical and molecular genetic study of six Japanese families with familial

hemiplegic migraine/ episodic ataxia type 2. Annual Meeting of American Society of Human Genetics, 10/27-30/2004 (Toronto, Canada)

- 16) 江川 潔、朝比奈直子、白石秀明、須藤 章、香坂 忍、斉藤伸治：Angelman 症候群における脳磁図所見 - 体性感覚誘発磁場、聴覚誘発磁場を中心として - 、第 34 回日本臨床神経生理学会、平成 16 年 11 月 17 日～19 日（東京）
- 17) 斉藤伸治、江川 潔、朝比奈直子、白石秀明、須藤 章：Angelman 症候群の再発危険率と遺伝カウンセリング、北海道出生前診断研究会、平成 16 年 11 月 20 日（札幌）
- 18) 白石秀明、江川 潔、朝比奈直子、須藤 章、香坂 忍、斉藤伸治、中根進児、有働康代：非定型良性小児部分てんかん症例における脳磁図所見の経時的変化、日本小児科学会北海道地方会第 261 回例会、平成 16 年 11 月 28 日（札幌）
- 19) 木田和宏、大塚耕右、中村明枝、城和歌子、水島正人、南雲 淳、永島哲郎、斉藤伸治、須藤 章：急速に進行し、リバビリン、IFN 脳室内投与を行った亜急性硬化性全脳炎（SSPE）の一例。日本小児科学会北海道地方会第 261 回例会、平成 16 年 11 月 28 日（札幌）
- 20) 須藤 章、江川 潔、朝比奈直子、白石秀明、斉藤伸治：異父姉が脊髄性筋萎縮症とされ、同様の臨床症状を呈した 5 歳男児例。第 5 回北海道小児神経症例検討会。平成 17 年 1 月 22 日（札幌）
- 21) 藤井 泰、江川 潔、朝比奈直子、白石秀明、須藤 章、斉藤伸治：乳児期早期から精神運動発達遅延を認め、MRI にてびまん性の白質病変を示した 1 歳男児例。第 5 回北海道小児神経症例検討会。平成 17 年 1 月 22 日（札幌）
- 22) 白石秀明、江川 潔、朝比奈直子、須藤 章、香坂 忍、斉藤伸治、中根進児、有働康代：非定型良性部分てんかん症例の経時的変化-脳磁図所見、治療経過を中心に- 第 58 回北海道てんかん懇話会。平成 17 年 2 月 19 日（札幌）
- 23) 江川 潔、朝比奈直子、白石秀明、須藤 章、香坂 忍、斉藤伸治、中根進児、有働康代：Angelman 症候群における体性感覚誘発磁場（SEF）所見、第 7 回日本小児神経学会北海道地方会、平成 17 年 3 月 5 日（札幌）
- 24) 境 信哉、富居泰臣、境 直子、須藤 章、斉藤伸治：Werdnig-Hoffmann 病児におけるスイッチ・デバイスの使用状況。第 7 回日本小児神経学会北海道地方会、平成 17 年 3 月 5 日（札幌）

講演

- 1) 斉藤伸治：小児の発達における脳波と臨床、日本臨床衛生検査技師会研修会、平成16年6月27日（札幌）
- 2) 斉藤伸治：小児のけいれん、子育て支援ワーカーズ、平成16年7月18日（札幌）
- 3) 斉藤伸治：療育における医療の役割、重症心身障害児を守るかいシンポジウム、平成16

年8月28日（札幌）

- 4) 齊藤伸治：養護学校における医療的ケア、真駒内養護学校、平成16年9月4日（札幌）
- 5) 齊藤伸治：小児神経学における遺伝学的アプローチ、第34回小児神経セミナー、平成16年10月9-11日（葉山）
- 6) 須藤 章：「後頭部に突発波をもつ小児てんかん早期発症型」(Panayiotopoulos症候群)について、北大小児科月曜集談会、平成16年11月29日（札幌）
- 7) 齊藤伸治：養護学校における医療的ケアの基本、北翔養護学校、平成17年1月21日（札幌）
- 8) 須藤 章：Panayiotopoulos 症候群の診断と治療、第7回日本小児神経学会北海道地方会、平成17年3月5日（札幌）
- 9) 齊藤伸治：お子さんはちゃんとお話が聴けていますか ～軽度発達障がいとは、小児科医の立場から～、北海道医療大学 生涯学習事業『臨床心理・言語聴覚セミナー』、平成17年2月19日、3月19日（札幌）
- 10) 須藤 章：Leigh症候群の診断と治療、北大小児科月曜集談会、平成17年3月28日（札幌）

論文

- 1) Kurosawa K, Harada N, Sosonkina N, Niikawa N, Saitoh S and Matsumoto N: Unmasking 15q12 deletion using microarray-based comparative genomic hybridization in a mentally retarded boy with r(y). *Am J Med Genet* 130A:322-32, 2004
- 2) 齊藤伸治：Prader-Willi 症候群と Angelman 症候群. *Clinical Neuroscience* 22: 1085-1088, 2004
- 3) Takano K, Takahashi M, Shiraishi H, Sudo A, Saitoh S, Kohsaka S, Shiga T and Fukuhara M: Multidisciplinary study of a patient with Landau-Kleffner syndrome: nuclear medicine and magnetoencephalographic findings. *Epilepsia* 45 (Suppl. 8):64, 2004
- 4) 木村 恵、境 信哉、齊藤伸治、須藤 章、白石秀明、平山和美: 右大脳半球に広範なてんかん原性焦点と半球性萎縮を認めた症候性部分てんかん症例に対する神経心理学的検討. *北海道作業療法* 21: 22-30, 2004
- 5) Hashimoto I, Kakigi R, Nagamine T, Nakasato N, Shiraishi H and Watanabe Y : Draft guideline for clinical application of magnetoencephalography. *Jpn J Clin Neurophysiol* 32: 1-23, 2004
- 6) 渡辺裕貴, 中里信和, 今井克巳, 白石秀明, 二宮宏智: 臨床脳磁図検査解析指針試案. *臨床神経生理学* 32(1):追補 1-13, 2004

- 7) 橋本 勲, 柿木隆介, 白石秀明, 中里信和, 長峯 隆, 渡辺裕貴: 脳磁図ガイドライン作成委員会報告 - 臨床脳磁図検査解析指針試案 (2004) について - . 臨床神経生理学 32(4):追補 1-19, 2004
- 8) 白石秀明, Knake S, Halgren E, Stufflebeam SM, 須藤 章、斉藤伸治: Dynamic Statistical Parametric Mapping (dSPM)を用いた、てんかん発作時磁場変化、Subclinical Discharge に対する検討 . 日本生体磁気学会誌 17: 162-3, 2004
- 9) Akahoshi K, Hattori Y, Ohashi H, Saitoh S, Fukushima Y and Wada T: A Woman with a phenotype of X-Linked α -Thalassemia/ Mental Retardation syndrome (ATR-X) and dup(16p13.11 and 13.3) *Am J Med Genet* 132A:414-418, 2005
- 10) Saitoh S, Wada T, Okajima M, Takano K, Sudo A and Niikawa N: Uniparental disomy and imprinting defects in Japanese patients with Angelman syndrome. *Brain Dev* 27:389-391, 2005
- 11) Shiraishi H, Stufflebeam SM, Knake S, Ahlfors SP, Sudo A, Asahina N, Egawa K, Hatanaka K, Kohsaka S, Saitoh S, Grant PE, Dale AM and Halgren E: Dynamic Statistical Parametric Mapping (dSPM) for Analyzing the Magnetoencephalographic Epileptiform Activity in Patients with Epilepsy. *J Child Neurol* 20:363-369, 2005
- 12) Oyama N, Terae S, Saitoh S, Sudoh A, Sawamura Y and Miyasaka K: Bilateral germinoma involving the basal ganglia and cerebral white matter. *Am J Neuroradiol* 26:1166-1169, 2005
- 13) 斉藤伸治: 小児神経学における遺伝学的アプローチ. 小児神経学の進歩第34集 79-87, 2005
- 14) Shiraishi H, Ahlfors SP, Stufflebeam SM, Takano K, Okajima M, Knake S, Hatanaka K, Kohsaka S, Saitoh S, Dale AM and Halgren E: Application of Magnetoencephalography in Epileptic Patients with Widespread Spike or Slow Wave Activity. *Epilepsia* , 2005 (in press)
- 15) Ichikawa M, Okajima M, Wada T, Tonoki H and Saitoh S: Non-chromosome 15 marker chromosome in a Prader-Willi syndrome patient with uniparental disomy. *Pediatr Int* , 2005 (in press)
- 16) Hosoki K, Takano K, Sudo A, Tanaka S and Saitoh S: Germline mosaicism of a novel mutation of *UBE3A* in Angelman syndrome. *Am J Med Genet* , 2005 (in press)
- 17) Asahina N, Okamoto T, Sudo A, Kanazawa N, Tsujino S and Saitoh S: A variable phenotype of Alexander disease: a near-juvenile form due to the R79H mutation in *GFAP*. *Brain Dev* , 2005 (in press)
- 18) Knake S, Grant PE, Stufflebeam SM, Wald LL, Shiraishi H, Rosenow F, Schomer DL, Fischl B, Dale AM and Halgren E: Aids to telemetry in the presurgical

evaluation of epilepsy patients: MRI, MEG and other non-invasive imaging techniques. *Clin. Neurophysiol.*, 2005 (in press)

学位

- 1) 須藤 章: Leigh syndrome caused by mitochondrial DNA G13513A mutation: frequency and clinical features in Japan. (ミトコンドリア DNA 13513 G A 変異による Leigh 症候群: 日本における頻度と臨床的特徴) (2005 年 2 月 14 日)

腎臓グループ

所属メンバー

- 佐々木聡 (助手、昭和62年卒)
中島泰志 (医員、平成5年卒)
帯金克行 (医員、平成7年卒)

外来患者数 879 名/年
入院患者数 42 名/年
腎生検組織診断 30 名/年

発表論文

1. Echigoya M, Obikane K, Nakashima T and Sasaki S: Glomerular localization of erythropoietin receptor mRNA and protein in neonatal and mature mouse kidney. *Nephron Exp Nephrol* 100:e21-29, 2005
2. 帯金克行: 細胞増殖シグナル伝達におけるマクロファージ遊走阻止因子の役割. *北海道医学雑誌* 79(6):659-666, 2004
3. 中島泰志、本田雅敬、幡谷浩史、濱崎祐子、後藤美和、大迫 豊、仲田晴子、石倉健司、池田昌弘: 幼児における塩酸セベラマー使用経験. *日本透析医学会雑誌* 38(3):219-225, 2005
4. 若木 均、池田昌弘、幡谷浩史、石倉健司、大迫 豊、本田雅敬: 新生児期から著明な高血圧を呈した Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease (ADPKD)の2例. *日本腎臓学会誌* 46(7): 719-723, 2004

学会発表

国際学会

1. Sasaki S, Watarai Y, Morita K, Cho K, Tonoki H and Obikane K: Rapid evolution of end stage renal failure in an infant of cranioectodermal dysplasia. *Korea-Japan Pediatric Nephrology Seminar, Busan, Korea, 2004*
2. Nakashima T et al. The influence of intraperitoneal dialysates on the cardiac ultrasonographic findings. *The 13th Congress of the International Pediatric Nephrology Association, Adelaide, Australia, 2004*
3. Sasaki S, Obikane K, Nakashima T and Nishihira J: Attenuation of adriamycin-induced nephropathy in MIF-deficient mice. *37th Annual Meeting of American Society of Nephrology, St. louis, Missouri, 2004*
4. Nakanishi K, Honda M, Ikeda M, Hattori S, Sasaki S and Yoshikawa N: Prospective

nationwide analysis in Japanese children of clinical course of primary nephrotic syndrome during two-year following initial therapy. 37th Annual Meeting of American Society of Nephrology, St. louis, Missouri, 2004

全国学会

1. 第 47 回日本腎臓学会学術集会、宇都宮、2004 年

小児における ^{99m}Tc -DTPA シンチグラフィーによる GFR 測定の検討 帯金克行、越後谷雅代、佐々木聡

糸球体腎炎における MIF の役割: ノックアウトマウスでの検討 佐々木聡、帯金克行、西平順

2. 第 29 回日本小児腎臓病学会

新生児期より急速な腎機能低下をきたした Cranioectodermal dysplasia の一例 帯金克行、渡井至彦、森田 研、中島泰志、長 和俊、外木秀文、佐々木聡

ネフローゼ発症時骨塩定量により発見された骨形成不全症の一例 中島泰志、池田昌弘、石倉健司、仲田晴子、大迫 豊、後藤美和、工藤祐子、幡谷浩史

3. 第 34 回日本腎臓学会東部部会、東京、2004 年

腹膜透析を導入したミトコンドリア脳筋症の 1 男性例 中島泰志、佐々木聡、帯金克行

4. 第 49 回日本透析医学会学術集会、神戸、2004 年

幼児における塩酸セベラマー使用経験 中島泰志、池田昌弘、石倉健司、仲田晴子、大迫 豊、後藤美和、工藤祐子、幡谷浩史

低体重児への SMAP 法による腹膜透析導入の経験 渡井至彦、森田 研、下田直彦、臼木智哲、野々村克也、帯金克行、佐々木聡

内分泌グループ

所属メンバー

- ・ 田島敏広 (助手、昭和 61 年卒)
- ・ 椿 淳子 (医員、平成 4 年卒)
- ・ 石津 桂 (大学院生 1 年、平成 10 年卒)

外来診療

のべ 325 人

間脳下垂体疾患 31% 甲状腺疾患 28% 糖尿病・肥満 13%

副腎疾患 8% その他 20%

治験

SFD に対する成長ホルモン治療, 成人 GHD に対する成長ホルモン治療,
低身長児に対する KP102 治療

特色

成長ホルモン治療, 先天性甲状腺機能低下症の精査機関, 先天性副腎過形成症の精査機関

ターナー女性に対する成長ホルモン治療, 性腺補充療法

PWS に対する成長ホルモン治療

シンポジウム

田島敏広, 藤枝憲二 Paracellin 遺伝子異常. 第 77 回日本内分泌学会総会 2004

招待講演

田島敏広 先天性下垂体疾患と副腎疾患の病因解析と新しい治療の開発

第 8 回静岡小児内分泌研究会, 2004 年

学会

Tajima T, Okuhara K, Tsubaki J, Fujieda K. A novel mutation of LHX4 gene causes congenital pituitary deficiency. 86th Annual meeting of Endocrine Society. 2004 New

Orleans

Tajima T, Satoh K, Okuhara K, Tsubaki J, Fujieda K. Growth of two Japanese boys with Barth syndrome. 20th International Growth Symposium, Geneva, 2004

田島敏広、奥原宏治、椿 淳子、藤枝憲二： Microsomal P450 oxidoreductase 遺伝子異常によって発症した CYP21, CYP17 複合欠損症。第 77 回日本内分泌学会総会 京都, 2004

中村昭伸, 小野百合, 永井 聡, 田島敏広 低 Ca 血症を合併した Gitelman 症候群の 1 例. 第 77 回日本内分泌学会総会 京都, 2004

奥原宏治, 椿 淳子, 佐藤孝平, 田島敏広, 奥原宏治 脳腫瘍後小児における代謝症候群の頻度に関する検討. 第 77 回日本内分泌学会総会 京都, 2004

田島敏広, 椿 淳子, 窪田 満, 原田正平, 鏡 雅子, 藤枝憲二 HNF-1a 異常による MODY の 1 例. 第 7 回北海道小児糖尿病研究会 札幌, 2003

田島敏広, 安達昌功, 立花克彦, 縄手 満, 高橋 豊, 渡辺 徹, 杉原茂孝, 溝口由美子, 藤枝憲二 日本人パーター症候群における CLCNKB 遺伝子の解析 第 38 回小児内分泌学会 神戸, 2004

和泉 啓, 田島敏広, 本村克明, 清水貴史, 木下英一, 吉本雅昭 CLCNKB 遺伝子欠失が同定されたパーター症候群 III 型の 1 例. 第 38 回小児内分泌学会 神戸, 2004

椿 淳子, 石津 桂, 石井伸明, 澤村 豊, 田島敏広, 藤枝憲二 頭蓋咽頭腫 9 例の長期経過 第 38 回小児内分泌学会 神戸, 2004

本間かおり, 原田敦子, 三上 篤, 水嶋好清, 福士 勝, 藤田晃三, 母坪智行, 田島敏広, 藤枝憲二 札幌市におけるクレチン症マススクリーニングの 10 年間の検査成績 第 32 回日本マススクリーニング学会 仙台 2004,

石津 桂, 椿 淳子, 田島敏広, 藤枝憲二 A Japanese patient with IMAGE association 第 12 回小児成長障害研究会、東京、2004

発表論文

田島敏広, 藤枝憲二: 先天性副腎過形成症, 小児科診療 45:1617-1622, 2004

藤根美穂, 古賀康嗣, 田中敏章, 田島敏広, 藤枝憲二: 生物学的不活性型成長ホルモンによる低身長症の1例. ホルモンと臨床 小児内分泌学のシンポ: 997-1001, 2004

蒔田芳男, 岡本年男, 藤枝憲二, 田島敏広: 日本人集団において StAR 遺伝子変異 Q258X に創始者効果が存在するか. ホルモンと臨床 小児内分泌学のシンポ: 997-1001, 2004

Taniguchi A, Tajima T, Nonomura K, Shinohara N, Mikami A, Koyanagi T: Expression of the Vascular Endothelial Growth Factor and its Receptors, Flk-1 and Flt-1 during Autotransplanted Adrenocortical Regeneration in Adrenalectomized Rat. J Urology 171, 2445-2449, 2004

Fluck C, Tajima T, Okuhara K, Mendoza B, Fujieda K, Miller WL: Mutations in NADPH-cytochrome P450 oxidoreductase in patients with multiple steroidogenic defects with and without associated Antley-Bixler Syndrome. Nature Genet 36: 228-229, 2004

Pandey AV, Fluck CE, Huang N, Tajima T, Fujieda K, Miller WL: P450 oxidoreductase deficiency: a new disorder of steroidogenesis affecting all microsomal P450 enzymes. Endocr Res 30:881-888. 2004

その他

NDO 2004 レポート

成長障害における IGF-1 の役割と可能性

12th international Congress of Endocrinology

Endo M, Abe S, Murashita M, Tajima T. The relationship between serum adiponectin levels and obesity related factors in obese children. pp845-890

>

Pediatric Endocrinology Reviewers 抄訳シリーズ

X連鎖性低リン血症性クル病の分子遺伝学的成因, 臨床生化学所見ならびにその治療

成長曲線は語るシリーズ

LHX4 異常症

低リン性くる病

カルシウム受容体異常症

循環器グループ

所属メンバー

- ・村上智明 (助手、平成元年卒)
- ・上野倫彦 (医員、平成3年卒)
- ・武田充人 (医員、平成5年卒)
- ・斎田吉伯 (医員、平成5年卒) (2004年9月まで)
- ・八鍬 聡 (医員、平成6年卒) (2004年10月から)
- ・盛一享徳 (医員、平成9年卒) (2005年3月まで)

1. 大学での仕事

1.1 病棟

入院数 のべ200人(全小児科病棟入院数の41.9%) (2003年 のべ211人 40.3%)

入院日数 8.7±12.3日 (平均±SD) 中央値6日
(2003年 11.2±14.9日 中央値7日)

内訳 心臓カテーテルのための入院 121例 (2003年 117例)

術前の入院 29例 (2003年 30例)

術後管理のための入院 29例 (2003年 30例)

原病の管理(心不全、不整脈など) 8例 (2003年 19例)

その他(心疾患患者の上気道炎、胃腸炎など) 13例 (2003年 10例)

心臓カテーテル検査137件 (2003年 139件)

うちintervention 23件(16.8%) (2003年 9件-6.5%)

バルーン拡大術 肺動脈弁性狭窄 6件

肺動脈末梢狭窄 5件

大動脈縮窄 1件

ステント留置術 末梢肺動脈ステント留置 1件

コイル留置術 動脈管開存コイル閉鎖 3件

Fontan手術前の体-肺動脈側副血行路コイル閉鎖術 3件

その他 心房中隔裂開術 2件

先天性房室ブロックに対するペーシングカテーテル留置 2件

入院患児のエコー検査

video記録されたfull study 323件 (2003年 288件)

1.2 外来

月(武田)、水(村上)、木(上野)の週3回

外来検査

外来エコー検査 713件 (2003年 622件)

ホルター心電図 151件 (2003年 187件)

2. 関連病院心外来など

週1回

市立札幌病院(武田)

月2回

幌南病院(斎田 八鍬)、天使病院(4月から-村上)

月1回

北海道がんセンター(武田)、小樽市立病院(村上)、市立千歳市民病院(斎田 八鍬)、美唄市立病院(上野)、美唄労災病院(上野)、日鋼記念病院(村上)、帯広厚生病院(上野)、釧路労災病院(村上)、中標津町立病院(武田)、倶知安厚生病院(上野)、苫小牧王子病院(村上)

隔月

市立根室病院(斎田 八鍬)

その他

市立三笠病院(年1回-村上)、栗山日赤病院(年2回-上野)

学校心電図など

札幌市(村上、上野)、江別市(上野)、石狩市(村上)、千歳市(八鍬)、北海道医師会(村上)

3. 学術活動

3.1 学会発表

2004.1.23

村上智明、上野倫彦、武田充人、斎田吉伯、石川友一

Fontan循環における肺循環側の狭窄評価について

第15回日本Pediatric Interventional Cardiology研究会 東京

2004.1.23

斎田吉伯、村上智明、石川友一、武田充人、上野倫彦

末梢性肺動脈狭窄における圧較差と拡張術の効果

第15回日本Pediatric Interventional Cardiology研究会 東京

2004.2.7

石川友一、上野倫彦、齋田吉伯、武田充人、村上智明
早期より肺高血圧を合併した心房中隔欠損症の1乳児例
第10回日本小児肺循環研究会 東京

2004.4.17

村上智明、盛一享徳、齋田吉伯、武田充人、上野倫彦、窪田武浩、橘 剛、八田英一郎、
村下十志文、中澤 誠
僧帽弁閉鎖不全術後心不全にアンギオテンシン変換酵素阻害剤が著効した一例
第42回北海道小児循環器研究会 札幌

2004.5.22

村上智明、盛一享徳、石川友一、齋田吉伯、武田充人、上野倫彦
小児におけるAugmentation Index: 正常曲線の作成
第4回臨床動脈波研究会 東京

2004.6.30

村上智明、武田充人、上野倫彦、齋田吉伯、石川友一
大動脈における圧反射の亢進は大動脈縮窄症術後における心血管病の原因の一つである
第40回日本小児循環器学会総会 東京

2004.6.30

石川友一、村上智明、齋田吉伯、武田充人、上野倫彦
大動脈縮窄症術後の早期圧反射が左室圧負荷を増大する
第40回日本小児循環器学会総会 東京

2004.6.30

武井黄太、提嶋俊一、石川友一、齋田吉伯、武田充人、上野倫彦、村上智明、水野寛太郎
当科で経験した拘束型心筋症2症例の検討
第40回日本小児循環器学会総会 東京

2004.6.30

武田充人、石川友一、齋田吉伯、上野倫彦、村上智明
小児の右心系重症心不全-Uh1病の2例-
第40回日本小児循環器学会総会 東京

2004.7.1

上野倫彦、村上智明、石川友一、齋田吉伯、武田充人、
心房中隔欠損症におけるナトリウム利尿ペプチド(HANP・BNP)血中濃度の検討-HANP・
BNPは右心負荷の程度を反映するか？
第40回日本小児循環器学会総会 東京

2004.7.1

齋田吉伯、村上智明、石川友一、武田充人、上野倫彦
左室拡張障害を主体とし、突然死した左室心筋緻密化障害の1例
第40回日本小児循環器学会総会 東京

2004.7.1

盛一享徳、村上智明
心筋炎後の拡張型心筋症に対する 遮断薬の効果と心機能の推移
第40回日本小児循環器学会総会 東京

2004.9.15

村上智明、丹羽公一郎、吉永正夫、中澤 誠
小児及び先天性心疾患における感染性心内膜炎：急性期手術例の検討
第52回日本心臓病学会総会 京都

2004.9.18

上野倫彦、盛一享徳、齋田吉伯、武田充人、村上智明、窪田 満
糖原病に合併した肺高血圧症(PH)に対するシルデナフィルの効果
第56回北日本小児科学会 盛岡

2004.10.2

岡田善郎、野呂 歩、那須 敬、中島健夫、服部 司、武田充人
肺血管内皮腫に肺高血圧症を伴った低出生体重児の一例
第4回北海道発達循環フォーラム 札幌

2004.10.2

石川友一、山澤弘洲、八鍬 聡、小林徳雄、村上智明
ベラプロストナトリウム投与により正常化した原発性肺高血圧症の一例
第4回北海道発達循環フォーラム 札幌

2004.10.2

上野倫彦、武田充人、村上智明、窪田 満、佐々木聡

二次性肺高血圧症に対するsildenafilの使用経験

第4回北海道発達循環フォーラム 札幌

2004.10.16

村上智明、上野倫彦、武田充人、八鍬 聡、盛一享徳、中澤 誠

心室中隔欠損パッチ閉鎖後の左室拡張性-Jatene術後症例の検討

第24回小児心機能血行動態研究会・第14回小児運動循環器研究会合同研究会

徳島

2004.11.13

八鍬 聡、村上智明、盛一享徳、武田充人、上野倫彦、若狭 哲、杉木宏司、橘 剛、八

田英一郎、窪田武浩、村下十志文、佐川浩一、石川司朗、角 秀秋

肺血流量を増加させないように管理しFontan循環に到達した心房錯位症候群の2例

第43回北海道小児循環器研究会 札幌

3.2 講演

2004.7.30

村上智明

PDE阻害薬の効能-カテコラミンとの違いについて

第1回桜山PPHNカンファレンス 名古屋

3.3 論文

Murashita T, Hatta H, Ooka T, Tachibana T, Kubota T, Ueno M, Murakami T, Yasuda K.

Minimal access surgery for the repair of simple congenital heart defects: factors affecting hospital stay after surgery.

Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 2004; 52: 127-134

村上智明、小林邦彦

Q&A 私の処方 動脈管依存性先天性心疾患に対するリポPGE1の使い方

小児科臨床 2004; 57: 259-262

武田充人、石川友一、斎田吉伯、上野倫彦、村上智明

右心系重症心不全 Uhl病の2例

呼吸と循環 2004; 52: S2-S4

中澤 誠、丹羽公一郎、吉永正夫、寺井 勝、越後茂之、藤原 卓、村上智明、市田露子、
城尾邦隆、羽根田紀幸、檜垣高史、鈴木 浩、上村秀樹、石和田稔彦、立野 滋、久保田
一見、福島裕之、塚野真也、森 善樹

小児及び成人先天性心疾患における感染性心内膜炎の全国調査-第2報-

日本小児循環器学会雑誌 2004; 20: 668-673

村上智明

心臓・血管の病気のカテーテル治療について

こどもクリニック 北海道小児科医会編 154-155

平成 16 年 北海道小児科医会

新生児グループ

所属メンバー

- ・ 長 和俊 (講師、昭和60年卒)
- ・ 岡嶋 覚 (医員、平成2年卒)
- ・ 内田雅也 (医員、平成5年卒)
- ・ 上田恵子 (医員、平成8年卒)

外来患者数

新生児外来	754件
産科外来数(1ヶ月健診)	309件

入院患者

出生体重区分別の新生児数

1,000g未満	11	(死亡数2)
1,000g~1,500g	10	(死亡数1)
1,500g~2,000g	25	(死亡数1)
2,000g~2,500g	66	(死亡数0)
2,500g~4,000g	227	(死亡数1)
4,000g以上	2	(死亡数0)
計	341	(死亡数5)

Apgar Score(1分)区分別の新生児数

0~3	7	(死亡数1)
4~6	20	(死亡数0)
7~10	314	(死亡数4)
計	341	(死亡数5)

多胎症例

双胎	25組	47例	(双胎1児IUFD3組)
品胎	2組	5例	(品胎1児IUFD1組)

死亡症例

NO	妊娠週数(週.日)	出生体重(g)	基礎疾患	死亡日齢	死因
1	25.5	860	RDS	37	壊死性腸炎
2	28.3	890	一卵性双児	150	慢性肺疾患
3	28.2	1,130	二卵性双児	7	気胸
4	28.2	1,700	二卵性双児	0	胎児水腫
5	39.2	2,670	修正大血管転移	96	修正大血管転移

1. 国内学会・研究会

第 52 回日本輸血学会 2004 年 6 月 23 日～25 日 (札幌)

長 和俊 「教育講演：輸血医学と CD36 (Nak^a, GPIV)」 CD36 と胎児水腫

第 49 回日本不妊学会 2004 年 9 月 2 日～4 日 (旭川)

長 和俊 「シンポジウム：ART と 2 卵性 1 絨毛膜性双胎」自然妊娠の 2 卵性双胎にみられた血液キメラ

第 32 回日本マス・スクリーニング学会 2004 年 10 月 8 ～9 日 (仙台)

長 和俊 「シンポジウム：クレチン症マス・スクリーニング：その到達点と今後の課題」未熟児のスクリーニング

第 40 回日本周産期・新生児医学会 2004 年 7 月 11 日～13 日 (東京)

上田恵子 ラットを用いた慢性肺疾患動物実験モデル作成実験

第 56 回北日本小児科学会 2004 年 9 月 18 日 (盛岡)

長 和俊 緑膿菌敗血症後に III 型 CLD 類似の胸部 X 線像を呈した超低出生体重児の 1 例

第 49 回日本未熟児新生児学会 2004 年 12 月 5 日～7 日 (横浜)

長 和俊 低出生体重児に対する新生児マススクリーニングに関する実態調査

1. 国際学会

XX International Congress of the Society 'The fetus as a patient' (Fukuoka) April 23-26, 2004

Ueda Keiko

Establishment of an animal model of Bronchopulmonary dysplasia in rats

Cho Kazutoshi Clinical Outcome of Hydrops Fetalis

New Aspects in Pulmonary Surfactant Biology and Diseases (Osaka) November 12-13, 2004

Kazutoshi Cho Successful treatment of congenital pulmonary alveolar proteinosis with gammaglobulin administration (Win 'Mason Award')

2. 研修会・その他

第 17 回北海道新生児談話会 2004 年 9 月 25 日 (札幌)

長 和俊 緑膿菌敗血症後に III 型 CLD 類似の胸部 X 線像を呈した超低出生体重児の 1 例

第 17 回北海道新生児談話会 2004 年 9 月 25 日 (札幌)

長 和俊 北海道におけるシナジス投与の動向

地域における周産期医療システムの確保 (平成 16 年度厚生労働科学研究補助金 公開市民フォーラム) 2004 年 11 月 2 日 (札幌)

長 和俊 「北海道における新生児医療のマンパワー」

3. 論文

長 和俊: 新生児医療と社会保険制度 周産期医学 34(8), 1298-1300, 2004

長 和俊: 新生児科医の報酬は適切か 周産期医学 34(12), 1839-1841, 2004

長 和俊: 経過別に学ぶ ハイリスク新生児の観察のポイント Neonatal Care 17(11), 1048-1080, 2004

長 和俊: 出生時の胃内吸引は必要か? 「周産期ケア エビデンスを求めて」周産期医学 増刊号 674-675, 2004

長 和俊: 呼吸窮迫症候群「イラストでわかる新生児の疾患・治療・ケア」Neonatal Care 2005 年春期増刊 60-64, 2005

長 和俊: サーファクタントの投与「イラストでわかる新生児の疾患・治療・ケア」Neonatal Care 2005 年春期増刊 176-179, 2005

岡田忠雄, 佐々木文章, 長 和俊, 廣方玄太郎, 藤堂 省: 臍・胆管合流異常のトピックス-出生前診断例の治療- 小児外科 36(4), 2004

Okada T, Sasaki F, Ueki S, Hirokata G, Okukyama K, Cho K, Todo S: Postnatal Management for Prenatally Diagnosed Choledochal Cysts. J Pediatr Surg 39, 1055-1058, 2004

Furuta I, Kobayashi N, Fujino T, Kobamatsu Y, Shiragane T, Yaegashi M, Sakuragi N,

Cho K, Yamada H, Okuyama K, Minakami H. Bone mineral density of the lumbar spine is associated with TNF gene polymorphism in early postmenopausal Japanese women. *Calcif Tissue Int* 74, 509-515, 2004

Morikawa M, Cho K, Kataoka S, Kato EH, Yamada T, Yamada H, Minakami H. Magnetic resonance image findings of placental lake: report of two cases. *Prenat Diagn* 25, 250-252, 2005

4. その他

長 和俊：先天性心疾患とRSウイルス．ラジオ NIKKEI「アボット感染症アワー」2004年11月26日放送

Cho K. Pathophysiology in homeostasis of lung surfactant. Lecture at **Kyunghee University (Seoul)**. 2005年1月29日

代謝グループ

所属メンバー

- ・窪田 満 (医員、昭和 61 年卒)
- ・竹田優子 (大学院生、平成 8 年卒)

外来患者数 712

入院患者数 24

【先天代謝異常症】

ムコ多糖症と類縁疾患 5 例

ムコ多糖症(MPS)IH 型(Hurler syndrome) 臍帯血幹細胞移植：1 才 9 ヶ月 F
2004/3/17 (移植のため血液班に入院)～2004/7/8

ムコ多糖症 H/S 型 (Hurler-Scheie syndrome) 骨髄移植：3 才 M
2004/7/20～2004/7/23

ムコ多糖症 II 型 (Hunter syndrome)：7 才 M
2004/8/23～2004/8/26

ムコ多糖症 II 型 (Hunter syndrome)：10 才 M
2004/8/27～2004/9/2

ムコリピドーシス III 型、頭痛 (チック症)：14 才 M
2005/1/12～2005/1/13

フェニルケトン尿症 2 例
フェニルケトン尿症：17 才 M
2004/7/2～2004/7/29

フェニルケトン尿症：1 才 9 ヶ月 F
2004/11/15～2004/11/19

糖原病 2 例

糖原病 1b 型 二次性糖尿病、てんかん：34 才 M
2004/4/26～2004/5/19

X-linked liver glycogenosis (糖原病 VIII 型) type 2 食事療法 : 5 才 M
2004/12/20~2005/1/5

メンケス病 2 例
メンケス病 症候性てんかん、十二指腸穿孔 : 2 才 M
2004/3/5~2004/5/31

メンケス病初発 : 3 ヶ月 M
2004/9/10 (市立札幌病院より転院) ~2004/11/1

NICCD (neonatal intrahepatic cholestasis caused by citrin deficiency) 1 例
NICCD 初発 : 日齢 26 F
2004/10/13 (新生児科より転科) ~2004/11/2

メチルマロン酸血症 1 例
メチルマロン酸血症初発 : 日齢 24 M
2004/12/20 (北見赤十字病院より転院) ~2005/2/18

ミトコンドリア脳筋症 1 例
ミトコンドリア脳筋症、腎機能低下 : 14 才 M
2005/3/2~2005/3/10

【肝臓疾患】

Progressive Familial Intrahepatic Cholestasis (PFIC, Byler 病) 2 例
PFIC partial external biliary diversion (PEBD)後、肝肺症候群、脳膿瘍 : 11 M
2004/6/1~2004/7/9、2005/3/1 (道立小児センターより転院) ~2005/4/27

PFIC partial external biliary diversion (PEBD) : 2 才 F
2004/8/9 (小児外科より転科) ~2004/8/31

胆道閉鎖症 1 例
胆道閉鎖症 : 1 ヶ月 F
2005/3/24 ~ 2005/3/29 (小児外科へ転科)

原因不明の肝硬変 1 例
原因不明の肝硬変 生体肝移植 : 1 才 8 ヶ月 M

2004/6/7 (移植外科より転科) ~2004/6/21、2005/2/2~2005/2/24

【消化管疾患】

潰瘍性大腸炎 2例

潰瘍性大腸炎 全結腸切除：12才 F

2004/10/19 ~ 2004/11/4(小児外科へ転科)、2004/11/24(小児外科より転科) ~ 2004/12/29

潰瘍性大腸炎：9才 M

2004/12/1 (小児外科より転科) ~2004/12/17

便失禁 1例

便失禁、ヒルシュスプルング病根治手術後：10才 M

2004/5/19~2004/7/16

発表論文

小杉山清隆：小児 *Helicobacter pylori* 感染性胃炎および十二指腸潰瘍の除菌前後の胃粘膜における粘膜免疫学的検討．北海道医学雑誌 79: 775-783, 2004

窪田 満：そこが知りたい小児の肝・胆道疾患 家族性肝内胆汁うっ滞症の肝移植以外の治療法は？ 小児内科 36: 1283-1285, 2004

窪田 満：小児慢性下痢症の治療の進歩 乳児難治性下痢症．小児科 45; 2278-2284, 2004

学会発表 全国学会

生体部分肝移植を行った原因不明の乳児期肝硬変の1例 -シトリン欠損症でも糖原病でもない- 窪田 満他、第31回日本小児栄養消化器肝臓学会、東京、2004年

乳児血便の臨床的・病因論的検討 今野武津子他、第31回日本小児栄養消化器肝臓学会、東京、2004年

肝移植で救命し得た原因不明の乳児期肝硬変の1例 窪田 満、第47回日本先天代謝異常学会、宇都宮市、2004年

ornithine transcarbamylase 欠損症に対する生体部分肝移植後に急性骨髄性白血病を発症した女児例

竹田優子他、第 47 回日本先天代謝異常学会、宇都宮市、2004 年

オルニチントランスカルバミラーゼ欠損症ヘテロの摘出肝を用いた検討-iNOS 及び尿素サイクル構成酵素の発現について- 村山 圭他、第 47 回日本先天代謝異常学会、宇都宮市、2004 年

小児消化管の粘膜免疫学的発達 窪田 満、第 14 回大阪小児栄養消化器病懇話会、大阪市、2004 年

不適切な治療でフェニルアラニン欠乏による重篤な症状をきたしたフェニルケトン尿症の 1 例 窪田 満他、第 3 回東北代謝異常症治療研究会、仙台市、2004 年

新生児スクリーニングで発見される先天代謝異常症 窪田 満、日本マス・スクリーニング学会技術部会 第 23 回研修会、札幌市、2004 年

学会発表 地方学会

Morquio 症候群との鑑別が困難であった Pseudoachondroplasia の 1 例 竹田優子他、日本小児科学会 北海道地方会第 260 例会、旭川市、2004 年

肺炎での入院を契機に発見した Hurler 症候群 (mucopolysaccharidosis type 1 H:MPS 1H)の女児例 大島美保他、日本小児科学会北海道地方会第 260 例会、旭川市、2004 年

小児の肝移植-胆道閉鎖症とそれ以外の症例- 窪田 満他、第 7 回北海道肝移植適応研究会、札幌市、2004 年

北海道大学病院における小児期の肝移植とその適応基準に関する検討 窪田 満他、日本小児科学会北海道地方会第 261 例会、札幌市、2004 年

腹腔鏡下全結腸切除術を施行した潰瘍性大腸炎の女児例 竹田優子他、日本小児科学会北海道地方会第 262 例会、札幌市、2005 年

生後早期に発症したメチルマロン酸血症の 1 例 古瀬優太他、日本小児科学会北海道地方

会第 262 例会、札幌市、2005 年

習慣性便秘症と fecal soiling の治療 窪田 満他、第 10 回北海道消化管運動研究会、札幌市、
2005 年

遺伝染色体グループ

(平成16年4月～平成17年3月)

所属メンバー

- 外木秀文 (非常勤講師, 昭和57年卒)
- 佐藤大介 (大学院生, 平成10年卒)

外来患者数 115人/年

入院患者数 0人/年

特色のある診療内容：原因不明の先天性疾患の診断、遺伝相談、遺伝子検査、Prader-Willi症候群の臨床経過の追跡

Sotos 症候群, Prader-Willi 症候群, Kabuki 症候群の遺伝子解析

発表論文

Miyake N, Tonoki H, Gallego M, Harada N, Shimokawa O, Yoshiura KI, Ohta T, Kishino T, Niikawa N, Matsumoto N. Phenotype-genotype correlation in two patients with 12q proximal deletion. *J Hum Genet* 49:282-4 (2004).

Miyake N, Visser R, Kinoshita A, Yoshiura K, Niikawa N, Kondoh T, Matsumoto N, Harada N, Okamoto N, Sonoda T, Naritomi K, Kaname T, Chinen Y, Tonoki H, Kurosawa K. Four novel NIPBL mutations in Japanese patients with Cornelia de Lange syndrome. *Am J Med Genet A* 135:103-5 (2005).

学会発表

第26回小児遺伝学会

22番染色体由来マーカー染色体と15番染色体のUPDを認めたPrader-Willi症候群の1例
外木秀文^{1,2)}, 市川瑞穂²⁾, 岡嶋真紀²⁾, 和田敬仁³⁾, 斉藤伸治²⁾

1) 天使病院小児科, 2) 北海道大学大学院医学研究科小児科, 3) 信州大学医学部衛生学

第7回北海道出生前診断研究会

Prader-Willi症候群に合併するマーカー染色体とUPDの関係について

外木秀文^{1,2)}, 後閑優美¹⁾, 島影宏美¹⁾, 市川瑞穂²⁾, 岡嶋真紀²⁾, 斉藤伸治²⁾

1) 天使病院, 2) 北海道大学大学院医学研究科小児科

市立札幌病院

所属メンバー

小児科

- ・富樫武弘（院長、昭和40年卒）
- ・福島直樹（医長、昭和46年卒）
- ・内藤広行（昭和58年卒）(平成16年12月まで)
- ・野呂 歩（平成8年卒）
- ・鴨志田久子（平成9年卒）
- ・古川卓朗（平成12年卒）(平成16年10月～)

新生児科

- ・服部 司（昭和49年卒）
- ・中島建夫（昭和53年卒）
- ・那須 敬（平成5年卒）
- ・古田博文（昭和61年卒）
- ・岡田善郎（平成10年卒）

専門外来

心臓外来（×1/週）

神経外来（×1/週）

未熟児追跡外来（×1/週）

血液外来（×1/週）

心身症外来（×1/週）

アレルギー外来（×1/週）

予防接種外来（×2/週）

病院全体の医師数 179人
小児科医師数 7人 (うち非常勤 2人)

病院全体の病床数 810床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 51床
NICU 病床数 6床
新生児病床数(NICU を除く) 32床

NICU としての認定 (あり) なし

平均小児科外来数 90~100人/日
平均時間外外来数 3人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 1,300人/年
年間のべ入院患者数 24,000人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 450人/年

年間分娩数 600人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 150人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 65人/年
年間呼吸管理患者数 100人/年

病院運営の保育所併設の有無 (あり) なし
ありの場合、24 時間対応の有無 (あり) (なし)
なしの場合、近隣の保育所の有無 (あり) なし
その 24 時間対応の有無 (あり) なし
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 2 ヶ月
産後 2 ヶ月
育児休暇の期間 12 ヶ月

発表論文の詳細

1. 楠本欽史、藤原ふみえ、古田博文、内藤広行、福島直樹、富樫武弘：IVH 管理を要した Henoch-Schonlein 紫斑病の 2 例．市立札幌病院医誌 63：21-26，2003
2. Togashi T, Matsuzono Y, Narita M and Morishima T: Influenza-associated acute encephalopathy in Japanese children in 1994-2002. *Virus Research* 103: 75-78, 2004
3. 鈴木大介、鴨志田久子、古田博文、内藤広行、福島直樹、富樫武弘：Chlamydia Pneumoniae 抗体価の上昇を認めた円形肺炎の 1 例．日本小児科学会雑誌 108(7)：979-982，2004
4. Kawashima H, Morishima T, Togashi T, Yokota S, Yamanobe G, Ioi H, Kashiwagi Y, Takekuma K, Hoshikawa A and Watanabe Y: Extraordinary changes in excitatory amino acid levels in cerebrospinal fluid of influenza-associated encephalopathy of children. *Neurochemichemical Research* 29(8): 1537-1540, 2004
5. 唯野貢司、岩井新治、佐々木晴見、山原和恵、田中恵子、青野奈緒子、浦瀧恵子、斎藤容子、西村昌秀、加藤正晴、多附勝利、永坂 敦、佐野秀一、樋口晶文、富樫武弘：感染性廃棄物管理委員会の活動と中間処理装置導入による効果．環境感染 19(3)：415-420，2004
6. 福島直樹：小児におけるインスリン療法の多様性について．糖尿病 47：251，2004
7. 富樫武弘：北海道麻疹ゼロ作戦．病原微生物検出情報 25(3)：66-67，2004

学会発表

全国学会

1. Togashi T: Activity for zero measles in Hokkaido. An International Symposium on Measles, Tokyo, 2004/1/17
2. 富樫武弘：北海道はしかゼロ作戦．麻疹（はしか）公開フォーラム はしかゼロにむけて、東京都、2004/3/14
3. 富樫武弘：インフルエンザウイルスとb菌感染症 - ワクチンの現状と展望 - . 岡山県ワクチン学術講演会、岡山市、2004/8/27

地方学会

1. 渡辺美保、鴨志田久子、古田博文、内藤広行、福島直樹、富樫武弘、岡田善郎、野呂 歩、那須 敬、中島健夫、服部 司：乳児持続性高インシュリン血性低血糖症の 7 例．日本

小児科学会北海道地方会第259回例会、札幌市、2004/1/25

2. 渡辺美保、鴨志田久子、古田博文、内藤広行、福島直樹、富樫武弘：SLEに慢性甲状腺炎と1型糖尿病を併発した1例。第25回北海道小児内分泌研究会、札幌市、2004/1/31
3. 富樫武弘、渡辺 徹、舘 睦子、高瀬愛子、藤田晃三：麻疹撲滅に向けての実践的研究 - 札幌市から麻疹ゼロへ - 第3報。第29回札幌市医師会医学会、札幌市、2004/2/15
4. 宇加江進、梅津愛子、岡 洋瑚、高橋 豊、富樫武弘、古山正之、山中 樹、渡辺 徹：札幌市における小児インフルエンザ接種数の調査。第29回札幌市医師会医学会、札幌市、2004/2/15
5. 唯野貢司、岩井新治、佐々木晴見、山原和恵、田中恵子、青野奈緒子、浦瀧恵子、斎藤容子、西村昌秀、加藤正晴、多附勝利、永坂 敦、佐野秀一、樋口晶文、富樫武弘：市立札幌病院における感染性廃棄物の現状と中間処理装置導入の効果について。第24回札幌市病院学会、札幌市、2004/2/28
6. 福島直樹：記憶に残る症例。札幌小児科医会定例学術集会、札幌市、2004/3/2
7. 福島直樹：小児1型糖尿病 - 毎日の生活と医療制度、その行く末を考える。第6回札幌医科大学病院糖尿病療養指導研究会、札幌市、2004/3/12
8. 鴨志田久子、渡辺美保、古田博文、内藤広行、福島直樹、富樫武弘：SPIDDMの一例。第6回北海道小児糖尿病研究会、札幌市、2004/6/5
9. 富樫武弘：鶏インフルエンザ。第84回日本交通医学会北海道地方会招聘講演、札幌市、2004/9/4
10. 富樫武弘：インフルエンザb菌ワクチン現状。函館市小児科医会学術講演会、函館市、2004/9/11
11. 古田博文、鴨志田久子、内藤広行、福島直樹、富樫武弘：急性腹症で発症した15歳川崎病症例

札幌厚生病院

所属メンバー

- ・ 今野武津子（昭和47年卒）
- ・ 高橋美智子（昭和58年卒）
- ・ 佐藤孝平（平成3年卒）
- ・ 三野絵美（平成8年卒）
- ・
- ・

専門外来

消化器外来（今野）

血液外来（今野）

内分泌外来（旭医大より藤枝先生 × 1 / 月、佐藤）

喘息外来（高橋）

腎臓外来（北大より佐々木先生 × 1 / 2 ヶ月）

神経外来（北大より斉藤先生 × 1 / 2 ヶ月）

病院全体の医師数 104人
小児科医師数 4人 (うち非常勤 0人)

病院全体の病床数 494床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 23床
NICU 病床数 0床
新生児病床数(NICU を除く) 1床

NICU としての認定 あり、なし

平均小児科外来数 71人/日
平均時間外外来数 4.8人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 1,397人/年
年間のべ入院患者数 9,280人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 357人/年

年間分娩数 187人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 12人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 0人/年
年間呼吸管理患者数 0人/年

病院運営の保育所併設の有無 あり、なし
ありの場合、24 時間対応の有無 あり、なし
なしの場合、近隣の保育所の有無 あり、なし
その 24 時間対応の有無 あり、なし
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 6週
産後 8週
育児休暇の期間 12ヵ月

発表論文の詳細

1. 今野武津子: 小児の慢性胃炎の *Helicobacter pylori* 除菌治療. *Helicobacter Research* 8: 240-245, 2004
2. 今野武津子、高橋美智子、佐藤孝平、藤井暢弘ほか: *Helicobacter pylori* 陽性の母から出生した児の感染に関する研究. 札医通信増刊 No.224: 61-32, 2004
3. Kato S, Konno M, Maisawa S et al: Results of triple eradication therapy in Japanese children: a retrospective multicenter study. *J Gastroenterol* 39: 838-843, 2004
4. Kato S, Nishino Y, Ozawa K, Konno M et al: The prevalence of *Helicobacter pylori* in Japanese children with gastritis or peptic ulcer disease. *J Gastroenterol* 39: 734-738, 2004
5. Kato S, Ozawa K, Okuda M, Nakayama Y, Yoshimura N, Konno M, Minoura T and Iinuma K: Multicenter comparison of rapid lateral stool antigen immunoassay and stool enzyme immunoassay for the diagnosis of *Helicobacter pylori* infection in children. *Helicobacter* 9: 669-673, 2004
6. 今野武津子: *Helicobacter* 研究のレビューと今後の展望. 小児における *H.pylori* 感染をみる. *Helicobacter Research* 9: 242-249, 2005

学会発表

全国学会

1. 今野武津子: ワークショップ「耐性菌に対する治療戦略」日本人小児の Clarithromycin 耐性 *H.pylori* の頻度と耐性菌に対する治療戦略. 第 10 回日本ヘリコバクター学会、東京都、2004/7
2. 今野武津子: シンポジウム「小児炎症性腸疾患の治療指針」小児クローン病治療指針案. 第 31 回小児栄養消化器肝臓学会、東京都、2004/9
3. 今野武津子: 委員会報告「血液疾患と *H.pylori* 感染」. 第 31 回小児栄養消化器肝臓学会、東京都、2004/9
4. 今野武津子、高橋美智子、佐藤孝平、窪田 満: 乳児血便の臨床的病因論的検討. 第 31 回小児栄養消化器肝臓学会、東京都、2004/9
5. Konno M, Takahashi M, Fujii N, et al: A 5-year follow-up study of mother-to-child transmission of *Helicobacter pylori* infection detected by random amplified polymorphic DNA fingerprinting method. 5th Western Pacific *Helicobacter pylori* Congress、神戸市、2004/11
6. 今野武津子、佐藤孝平、高橋美智子、三野絵美: 結石を合併したクローン病の 3 症例. 第 5 回日本小児 IBD 研究会、東京都、2005/3

地方学会

1. 高橋美智子、佐藤孝平、今野武津子：シェーグレン症候群の経過観察中、心嚢炎と心タンポナーデを発症し SLE と診断した一例．日本小児科学会北海道地方会第 260 回例会、旭川市、2004/5
2. 今野武津子：「最近のクローン病の治療」．第 14 回北海道 IBD 食・食事療法研究会、札幌市、2004/7
3. 今野武津子：「小児のヘリコバクター・ピロリ感染症」．平成 16 年度臨床検査技師研修会、札幌市、2004/10
4. 今野武津子：『小児の IBD』．2004 年度札幌市難病医療相談会、札幌市、2004/11
5. 佐藤孝平、三野絵美、高橋美智子、今野武津子：慢性特発性偽性腸閉塞症候群と考えられる 1 男児例．日本小児科学会北海道地方会第 261 回例会、札幌市、2004/11

幌南病院

所属メンバー

- ・高橋 豊 (主任医長、昭和50年卒)
- ・鹿野高明 (医長、昭和52年卒)
- ・川原朋乃 (平成9年卒)(平成15年10月~)
- ・藤原ふみえ (平成11年卒)(平成15年4月~)
- ・佐藤宏紀 (平成13年卒)(平成15年4月~)
- ・
- ・

専門外来

神経外来 (×2/月) 坂井多恵子先生
心臓外来 (×2/月) 北大心臓班八鍬 聡先生
喘息アレルギー外来 高橋 豊
内分泌外来 高橋 豊
血液外来 鹿野高明

病院全体の医師数 47人 (研修医4人含む)
小児科医師数 5人 (うち非常勤 0人)

病院全体の病床数 329床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 31床
NICU 病床数 0床
新生児病床数(NICUを除く) 2床

NICU としての認定 あり、なし

平均小児科外来数 81.6人/日
平均時間外外来数 4.9人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 1,986人/年
年間のべ入院患者数 11,833人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 705人/年

年間分娩数 318人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数 50人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数 0人/年
年間呼吸管理患者数 5人/年

病院運営の保育所併設の有無 あり、なし
ありの場合、24時間対応の有無 あり、なし
なしの場合、近隣の保育所の有無 あり、なし
その24時間対応の有無 あり、なし
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 カ月
産後 カ月
育児休暇の期間 カ月

発表論文の詳細

1. 藤原ふみえ、中村明枝、佐藤宏紀、川原朋乃、鹿野高明、高橋 豊：皮下膿瘍による toxic shock syndrome の 1 例．小児科 46： 456-460， 2005
2. 鹿野高明、大倉有加、中村明枝、川原朋乃、藤原ふみえ、高橋 豊：耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)と非 MRSA によるブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群の臨床像の比較．共済医報 54： 9-13， 2005
3. 高橋 豊：ウイルス性気道感染症の病体解析とその後の喘息発症予測因子解明に関する研究．環境保全機構委託事業「乳幼児を対象とした診査・介入による事業展開の重点化に関する研究報告書」平成 16 年度 森川昭廣 編： 41-49， 2004
4. 高橋 豊、佐藤宏紀、川原朋乃、藤原ふみえ、鹿野高明、海老原敬、石黒信久、菊田英明： Human metapneumovirus が発作誘発に関与したと考えられる小児喘息患児の検討．喘息 18： 77-80， 2005
5. 川原朋乃、佐藤宏紀、藤原ふみえ、鹿野高明、高橋 豊：最近経験した細菌性髄膜炎 8 例の検討 - 発熱早期に治療を開始した一例を中心に - ．幌南病院医学雑誌 2： 14-17， 2005

学会発表

全国学会

1. 高橋 豊、佐藤宏紀、川原朋乃、藤原ふみえ、鹿野高明、海老原敬、石黒信久、菊田英明：小児喘息発作誘発における Human metapneumovirus の関与．第 41 回小児アレルギー学会、東京都、2004/11/27-28
2. 高橋 豊、渡辺 徹、森 俊彦、宇加江進、我妻義則、平野至規、有賀 正、堤 裕幸、崎山幸雄：北海道内小児喘息患者に対する第 2 回アンケート調査、1 . 0 1 年と 0 4 年調査における治療内容と患児の QOL の比較．第 17 回アレルギー学会春期臨床大会、岡山市、2005/6/2-4
3. 渡辺 徹、高橋 豊、森 俊彦、宇加江進、我妻義則、平野至規、有賀 正、堤 裕幸、崎山幸雄：北海道内小児喘息患者に対する第 2 回アンケート調査、2 . 0 1 年と 0 4 年調査における保護者の QOL の比較．第 17 回アレルギー学会春期臨床大会、岡山市、2005/6/2-4
4. 我妻義則、梅津愛子、木村健修、島野由美、高橋 豊、山中 樹、渡辺一彦、渡辺 徹：小児気管支喘息におけるプロピオン酸フルチカゾン吸入薬の使用による身長に及ぼす影響についての検討．第 42 回小児アレルギー学会、福井市、2005/11/19-20
5. 高橋 豊、羽田美保、田端祐一、米川元晴、鹿野高明：Respiratory syncytial virus 感染症により入院した児のその後の喘鳴性疾患罹患とその危険因子に関する検討．第 42 回小児アレルギー学会、福井県、2005/11/19-20

地方学会

1. 藤原ふみえ、中村明枝、佐藤宏紀、川原朋乃、鹿野高明、高橋 豊；皮下膿瘍による toxic shock syndrome の 1 例．第 260 回日本小児科学会北海道地方会、旭川市、2004/5/16
2. 川原朋乃、佐藤宏紀、藤原ふみえ、鹿野高明、高橋 豊：発熱後早期に診断した細菌性髄膜炎の一例．第 2 回豊平河畔小児科合同症例検討会、札幌市、2004/11/17
3. 佐藤宏紀、川原朋乃、藤原ふみえ、鹿野高明、高橋 豊：反復性耳下腺炎を契機に診断されたシェーグレン症候群の一例．札幌市小児科医会、札幌市、2005/3/1
4. 鹿野高明、佐藤宏紀、川原朋乃、藤原ふみえ、高橋 豊：耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)と非 MRSA によるブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群の臨床像の比較．札幌市小児科医会、札幌市、2005/3/1
5. 高橋 豊：シンポジウム「感染と各科アレルギー性疾患 - 1. ウイルス感染と小児喘息」、第 9 回北海道アレルギー研究会、札幌市、2005/5/14
6. 川原朋乃、佐藤宏紀、藤原ふみえ、鹿野高明、高橋 豊：フェノバルビタールが誘因と考えられた drug-induced hypersensitivity syndrome の一例．豊平症例検討会、札幌市、2005/2/28

講演

1. 高橋 豊：乳幼児喘息の診断と治療．Theophyllin conference 2004 in Sapporo、札幌市、2004/12/4
2. 高橋 豊：小児喘息の診断と治療．苫小牧小児科医会、苫小牧市、2005/3/9
3. 高橋 豊：小児喘息の診断と治療．那覇市病院小児科医会、那覇市、2005/7/8

天使病院

所属メンバー

- ・古賀康嗣（小児科診療部部長、昭和54年卒）
- ・外木秀文（小児科科長、昭和57年卒）
- ・高橋伸浩（NICU科長、昭和62年卒）
- ・金田 真（医師、平成5年卒）
- ・小西祥平（医師、平成11年卒）
- ・渡辺麻衣子（医師、平成12年卒）
- ・

専門外来

- 心臓外来（×2/月）
- 神経外来（×2/月）
- 新生児フォローアップ外来（×4/月）
- 遺伝外来（×4/月）

病院全体の医師数 47人 (臨床研修医6を含む)
小児科医師数 6人 (うち非常勤 人)

病院全体の病床数 260床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 29床
NICU 病床数 12床
新生児病床数(NICUを除く) 床

NICU としての認定 (あり) なし

平均小児科外来数 84人/日
平均時間外外来数 5.2人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 2,050人/年
年間のべ入院患者数 13,397人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 392人/年

年間分娩数 830人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数 147人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数 39人/年
年間呼吸管理患者数 48人/年

病院運営の保育所併設の有無 あり、(なし)
ありの場合、24時間対応の有無 あり、なし
なしの場合、近隣の保育所の有無 (あり) なし
その24時間対応の有無 あり、(なし)
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 6週
産後 8週
育児休暇の期間 子供が1歳になるまで

発表論文の詳細

1. Miyake N, Visser R, Kinoshita A, Yoshiura K, Niikawa N, Kondoh T, Matsumoto N, Harada N, Okamoto N, Sonoda T, Naritomi K, Kaname T, Chinen Y, Tonoki H and Kurosawa K: Four novel NIPBL mutations in Japanese patients with Cornelia de Lange syndrome. Am J Med Genet A 135(1): 103-105, 2005

学会発表

全国学会

1. 小西祥平、渡辺麻衣子、金田 真、高橋伸浩、外木秀文、古賀康嗣: ムンプス罹患後に呼吸不全を呈した脳幹脊髄炎の一例. 第56回北日本小児科学会、盛岡市、2004/9/14
2. 外木秀文、市川瑞穂、岡嶋真紀、和田敬仁、斉藤伸治(天使病院小児科、北海道大学大学院医学研究科小児科): 2番染色体由来マーカー染色体と15番染色体の母由来UPDをあわせ持つPrader-Willi症候群の1例. 第27回日本小児遺伝学会、東京都、2004/10/16

地方学会

1. 渡辺麻衣子、小西祥平、金田 真、高橋伸浩、外木秀文、山本浩史: 修正41週で根治手術を終えた食道閉鎖症・鎖肛合併の1男児例. 第260回日本小児科学会北海道地方会、旭川市、2004/5/16
2. 外木秀文、後閑優美、島影宏美、市川瑞穂、岡嶋真紀、斉藤伸治: Prader-Willi症候群に合併する過剰染色体マーカーとUPDの関係について. 第7回北海道出生前診断研究会、札幌市、2004/11/20

北海道社会保険病院

所属メンバー

- ・ 沢田博行 (主任部長、昭和51年卒)
- ・ 中山承代 (部長、昭和56年卒)
- ・ 衣川佳数 (部長、昭和58年卒)
- ・ 鈴木靖人 (医員、平成7年卒)
- ・ 岡嶋真紀 (常勤嘱託医、平成7年卒)
- ・
- ・

専門外来

発達外来 (×2/週)

心臓外来 (×4/週)

神経外来 (×1/週)

アレルギー外来 (×1/週)

腎外来 (×1/月)

病院全体の医師数	55人
小児科医師数	5人 (うち常勤嘱託医 1人)
病院全体の病床数	350床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	27床
NICU 病床数	0床
新生児病床数(NICU を除く)	3床 (NICU 相当の管理が可能な病床が 3床)

NICU としての認定 あり、なし

平均小児科外来数	91.4人/日
平均時間外外来数	8.8人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	1,517人/年
年間のべ入院患者数	10,293人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	569人/年

年間分娩数	433人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	72人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	12人/年
年間呼吸管理患者数	14人/年

病院運営の保育所併設の有無	あり、 <u>なし</u>
ありの場合、24時間対応の有無	あり、なし
なしの場合、近傍の保育所の有無	<u>あり</u> 、なし
その24時間対応の有無	あり、 <u>なし</u>
産前・産後休暇の一般的な期間	産前 7週 産後 8週
育児休暇の期間	12ヵ月 (医師に適應された例はない)

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

手稻溪仁会病院

所属メンバー

- ・ 崎山幸雄 (小児センター長、昭和42年卒)
- ・ 濱田 勇 (小児循環器科医長、昭和44年卒)
- ・ 渡辺 徹 (小児科部長、昭和49年卒)
- ・ 栃丸博幸 (小児科主任医長、昭和51年卒)
- ・ 楠 幸博 (小児科主任医長、昭和56年卒)
- ・ 武田宏一郎 (小児循環器科主任医長、昭和62年卒)
- ・ 佐々木康 (小児循環器科医長、平成4年卒)
- ・ 武井黄太 (小児科医員、平成11年卒)
- ・ 山崎 茂 (小児科医員、平成15年卒)

専門外来

免疫・アレルギー外来 (× 8 /月)

喘息・アレルギー外来 (× 8 /月)

腎臓外来 (× 4 /月)

腎臓・慢性外来 (× 8 /月)

神経外来 (北大神経班の出張)(× 3 /月)

内分泌外来 (小池こどもクリニックより出張)(× 1 /月)

心臓外来 (× 1 6 /月)

心臓エコー外来 (× 1 6 /月)

病院全体の医師数 136人
小児科医師数 8人 (うち非常勤 人)

病院全体の病床数 524床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 29床
NICU 病床数 0床
新生児病床数(NICU を除く) 0床

NICU としての認定 あり、なし

平均小児科外来数 125人/日
平均時間外外来数 データ無し 人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 1,913人/年
年間のべ入院患者数 12,609人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 350人/年

年間分娩数 572人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 18人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 0人/年
年間呼吸管理患者数 不明 人/年

病院運営の保育所併設の有無 あり、なし
ありの場合、24 時間対応の有無 あり、なし
なしの場合、近隣の保育所の有無 あり、なし
その 24 時間対応の有無 あり、なし
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 6 ヶ月
産後 8 ヶ月
育児休暇の期間 12 ヶ月

発表論文の詳細

1. 柳生一自、宮川雅美、白石秀明、楠 幸博、栃丸博幸、渡辺 徹、畑江芳郎、崎山幸雄：
血液学的異常を呈したヒトパルボウイルス B 1 9 感染症の 3 例．臨床小児医学
52(1.2)：27-32，2004

学会発表

全国学会

なし

地方学会

1. 土畠智幸、横山由佳、小林由典、山崎 茂、伊藤智城、武井黄太、楠 幸博、栃丸博幸、
渡辺 徹、崎山幸雄： c 鎖欠損による重症複合免疫不全症の一症例．日本小児科学会
北海道地方会第 2 6 1 回例会、札幌市、2004/11/28
2. 山崎 茂、武井黄太、武田宏一郎、佐々木康、楠 幸博、栃丸博幸、渡辺 徹、崎山幸
雄：脳内出血を起こし死亡した EBV-AHS の一例．日本小児科学会北海道地方会第 2
6 1 回例会、札幌市、2004/11/28
3. 伊藤智城、村山晶俊、小林由典、山崎 茂、武井黄太、楠 幸博、栃丸博幸、渡辺 徹、
崎山幸雄：外科的治療を要した化膿性骨髄炎の 1 0 ヶ月男児例．日本小児科学会北海
道地方会第 2 6 2 回例会、札幌市、2005/2/27
4. 伊藤智城、小林由典、武井黄太、武田宏一郎、佐々木康、楠 幸博、栃丸博幸、渡辺 徹、
崎山幸雄：気道異物の 3 例．西区手稲区小児科医会、札幌市、2004/9/28
5. 竹中 裕、小林由典、武井黄太、楠 幸博、栃丸博幸、渡辺 徹、崎山幸雄：感染性蕁
麻疹の 1 例．西区手稲区小児科医会、札幌市、2005/2/22
6. 山崎 茂、武井黄太、武田宏一郎、佐々木康、楠 幸博、栃丸博幸、渡辺 徹、崎山幸
雄：食物アレルギーとの鑑別に苦慮したメッケル憩室の 1 例．北日本小児科学会、盛岡
市 2004/9
7. 小林由典、武井黄太、武田宏一郎、佐々木康、楠 幸博、栃丸博幸、渡辺 徹、崎山幸
雄：下痢を伴わず反復した HUS の 1 例．北海道小児腎臓研究会、2004/10/23
8. 栃丸博幸：SLE の治療方針．北海道リウマチ研究会、2005/2/26
9. 山崎 茂、武井黄太、楠 幸博、栃丸博幸、渡辺 徹、崎山幸雄：著明な低身長を来し
た慢性甲状腺炎の 1 例．北海道内分泌研究会、2005/1/29

北海道がんセンター

所属メンバー

- ・飯塚 進 (昭和51年卒)
- ・長 祐子 (平成2年卒)
- ・古川卓朗 (平成12年卒)(平成16年4月~平成16年9月)
- ・東梅ひろみ(平成9年卒)(平成16年10月~)
- ・田中洋光 (平成13年卒)(平成16年12月~)

専門外来

心臓外来

血液腫瘍外来

慢性疾患外来

内分泌外来

病院全体の医師数	85人
小児科医師数	3人 (うち非常勤 1人)

病院全体の病床数	520床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	18床
NICU 病床数	0床
新生児病床数(NICU を除く)	0床

NICU としての認定 あり、なし

平均小児科外来数	2.0人/日
平均時間外外来数	0.3人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	208人/年
年間のべ入院患者数	6,350人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	5人/年

年間分娩数	0人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	0人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0人/年
年間呼吸管理患者数	0～1人/年

病院運営の保育所併設の有無	<u>あり</u> 、なし	
ありの場合、24 時間対応の有無	<u>あり</u> 、なし	週に2回のみ
なしの場合、近隣の保育所の有無	<u>あり</u> 、なし	
その24 時間対応の有無	あり、なし	不明
産前・産後休暇の一般的な期間	産前 1.5ヵ月	
	産後 8ヵ月	
育児休暇の期間		12ヵ月

発表論文の詳細

1. 畑江芳郎：最近の小児横紋筋肉腫の治療成績．小児外科 35(1)：95-103, 2003
2. 畑江芳郎、飯塚 進、長 祐子：当科で経験した二次性造血器腫瘍．第 28 回札幌市医師会医学会誌：61-62, 2003

学会発表

全国学会

1. 畑江芳郎、田中洋充、長 祐子、飯塚 進、常松香里、平賀博明：治療に苦慮している paraspinal undifferentiated sarcoma の小児例．日本横紋筋肉腫研究グループ(JRSG) 第 3 回研究会、東京都、2003/1/18
2. 市川瑞穂、田中洋充、中村明枝、長 祐子、飯塚 進、畑江芳郎、斉藤朱里、高橋光生：化学療法中に真菌性眼内炎を併発した急性骨髄単球性白血病の一例．第 45 回日本小児血液学会、金沢市、2003/10/17
3. 飯塚 進、堀越泰雄、多賀 崇、三宅宗典、陳 基明、上玉利彰、伊藤正樹、小川 淳、関口典子、百名伸之、岩井朝幸、子川和宏、吉田 真、上原貴博、片野直之、鶴沢正仁：CCLSG におけるダウン症候群に合併する急性巨核芽球性白血病(M7)の治療成績．第 45 回日本小児血液学会、金沢市、2003/10/17
4. 吉岡 章、畑江芳郎、三浦琢磨、花田良二、瀧 正志、三間屋純一、上田一博、川上 清、白幡 聡：血友病委員会報告 第 45 回日本小児血液学会、金沢市、2003/10/17
5. 瀧 正志、吉岡 章、白幡 聡、上田一博、花田良二、三間屋純一、畑江芳郎、三浦琢磨、川上 清：乳幼児重症型血友病に対する定期補充療法に関する前方視的治療研究．第 45 回日本小児血液学会、金沢市、2003/10/17
6. 小川 淳、堀越泰雄、片野直之、三宅宗典、多賀 崇、飯塚 進、上玉利彰、陳 基明、伊藤正樹、関口典子、鶴沢正仁：CCLSG AML9805 再発例の検討．第 45 回日本小児血液学会、金沢市、2004/10/17
7. 長 祐子、中村明枝、田中洋充、市川瑞穂、飯塚 進、畑江芳郎、内藤春彦：小児 Gastrointestinal Stromal Tumor(GIST)3 症例の治療経験．第 19 回日本小児がん学会総会、東京都、2003/11/28
8. 西 基、武田武夫、花井潤師、藤田晃三、一宮久恵、田中稔泰、畑江芳郎：フランスと日本の神経芽種死亡率の比較．第 19 回日本小児がん学会総会、東京都、2003/11/28
9. 家原知子、細井 創、浜崎 豊、田中丈夫、畑江芳郎、金子道夫、黒岩 実、麦島秀雄、中川原章、草深竹志、田尻達郎、河野嘉文、澤田 淳、杉本 徹：マス・スクリーニング発見例と非マス例の比較検討 - 乳児神経芽種統一治療プロトコール登録例の解析よ

- り - . 第 19 回日本小児がん学会総会、東京都、2003/11/28
10. 花井潤師、藤田晃三、田中稔泰、一宮久恵、西 基、畑江芳郎、内藤春彦、武田武夫：札幌市における生後 1 歳 2 ヶ月の神経芽種マス・スクリーニングの有効性．第 19 回日本小児がん学会総会、東京都、2003/11/28
 11. 柴崎 晋、佐々木文章、松下通明、神山俊哉、中川隆公、古川博之、伊藤智雄、太田 聡、岡田忠雄、内藤春彦、長 祐子、畑江芳郎、藤堂 省：肝間葉性過誤種切除後に発生した肝肉腫様腫瘍の 1 例．第 19 回日本小児がん学会総会、東京都、2003/11/28

地方学会

1. 田中洋充、常松香里、長 祐子、飯塚 進、畑江芳郎、飽津泰史：腹痛によって発見された GIST(gastrointestinal stromal tumor) の 1 例．日本小児科学会北海道地方会第 256 回例会、札幌市、2003/1/26
2. 畑江芳郎、長 祐子、飯塚 進、井須和男、山脇慎也、岡 敏明、武田武夫：当科で経験した二次性造血器腫瘍．第 28 回札幌市医師会医学会、札幌市、2003/2/16
3. 飯塚 進、常松香里、田中洋充、長 祐子、畑江芳郎：JMML の 1 例．第 7 回北海道小児血液セミナー、旭川市、2003/2/21
4. 常松香里、田中洋充、長 祐子、飯塚 進、畑江芳郎：Double megatherapy を予定している肺芽種の 1 例．第 28 回北海道小児がん研究会、札幌市、2003/2/28
5. 中村明枝、市川瑞穂、長 祐子、飯塚 進、畑江芳郎：高度の貧血にて発症した Evans 症候群の一例．日本小児科学会北海道地方会第 257 回例会、札幌市、2003/5/18
6. 佐藤琢司、家子正裕、垂水隆志、今野武津子、岡 敏明、飯塚 進：血友病と線溶亢進．第 9 回北海道血友病研究会、札幌市、2003/8/2
7. 市川瑞穂、中村明枝、長 祐子、飯塚 進、畑江芳郎：急性化膿性甲状腺炎．日本小児科学会第 54 回ブロッック大会、札幌市、2003/9/14
8. 飯塚 進：凝固因子製剤の安全性．北海道血友病の会、旭川市、2003/9/27
9. 飯塚 進、市川瑞穂、長 祐子、畑江芳郎、井手口豊：遺伝性球状赤血球症 band 3 Sapporo の一家族．第 20 回北海道小児血液研究会、札幌市、2003/11/15
10. 市川瑞穂、中村明枝、長 祐子、飯塚 進、畑江芳郎：神経芽種手術後に Opsoclonus Polymyoclonia Syndrome(OPS)を呈した 3 例．日本小児科学会北海道地方会第 258 回例会、札幌市、2003/11/30
11. 市川瑞穂、長 祐子、飯塚 進、畑江芳郎、近藤哲史、山城勝重：縦隔未熟・悪性奇形種の 3 例．日本小児科学会北海道地方会第 259 回例会、札幌市、2004/2/25
12. 飯塚 進、市川瑞穂、長 祐子、畑江芳郎、芳賀一徳、柏木 明、永森 聡：傍精巣原発進行横紋筋肉腫の 2 例．北海道小児がん研究会、2004/3/5

JR 札幌鉄道病院

所属メンバー

- ・ 中山雅之 （主任医長 昭和 4 8 年卒）
- ・ 成田光生 （医長 昭和 5 7 年卒）
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

専門外来

食物アレルギー外来

喘息外来

心理療法士によるカウンセリング

病院全体の医師数 36人
小児科医師数 2人 (うち非常勤 人)

病院全体の病床数 312床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 12床
NICU 病床数 0床
新生児病床数(NICU を除く) 4床

NICU としての認定 あり、(なし)

平均小児科外来数 20人/日
平均時間外外来数 0.3人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 360人/年
年間のべ入院患者数 1,440人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 30人/年

年間分娩数 80人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 5人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 0人/年
年間呼吸管理患者数 0人/年

病院運営の保育所併設の有無 あり、(なし)
ありの場合、24 時間対応の有無 あり、なし
なしの場合、近隣の保育所の有無 あり、なし
その 24 時間対応の有無 あり、なし
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 1.5 ヶ月
産後 2 ヶ月
育児休暇の期間 12 ヶ月

発表論文の詳細

1. Milito AD, Nilsson A, Titanji K, Thorstensson R, Reizenstein E, Narita M, Grutzmeier S, Sönnnerborg A and Chiodi F: Mechanisms of hypergammaglobulinemia and impaired antigen-specific humoral immunity in HIV-1 infection. *Blood* 103: 2180-2186, 2004
2. Togashi T, Matsuzono Y, Narita M and Morishima T: Influenza-associated acute encephalopathy in Japanese children in 1994-2002. *Virus Res* 103: 75-78, 2004
3. Narita M and Tanaka H: Two distinct patterns of pleural effusions due to *Mycoplasma pneumoniae* infection. *Pediatr Infect Dis J* 23: 1069, 2004
4. Matsuoka M, Narita M, Okazaki N, Ohya H, Yamazaki T, Ouchi K, Suzuki I, Andoh T, Kenri T, Sasaki Y, Horino A, Shintani M, Arakawa Y and Sasaki T: Characterization and molecular analysis of macrolide-resistant *Mycoplasma pneumoniae* clinical isolates obtained in Japan. *Antimicrob Agents Chemother* 48: 4624-4630, 2004
5. Narita M: Current status of macrolide-resistant *Mycoplasma pneumoniae* in Japan. Proc 1st Asian Org Mycoplasma meeting, 2004.(in press)
6. 成田光生: マクロライド耐性マイコプラズマ野生株の性状解析と、その臨床医学に関わる問題点。「百日咳菌、ジフテリア菌、マイコプラズマ等の臨床分離菌の収集と分子疫学的解析に関する研究」厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症研究事業)平成15年度総括・分担研究報告書: 41-48, 2004.3.
7. 佐々木次雄、荒川宜親、成田光生、岡崎則男、安岡富久: マクロライド耐性 *Mycoplasma pneumoniae* 増加の兆し. *病原体検出情報* 25: 43-44, 2004
8. 成田光生: 麻疹特異的 IgG 抗体 avidity. *Medical Technology* 32: 9-10, 2004
9. 成田光生: マクロライド耐性肺炎マイコプラズマ感染症. *感染症と化学療法* 7: 11-14, 2004
10. 成田光生: 麻疹ウイルス特異的 IgG 抗体 avidity から見た宿主側免疫応答の異常. *Neuroinfection* 9: 7-74, 2004
11. 成田光生: 薬剤耐性マイコプラズマは普通に野生に存在する - 臨床と分離株の性状との discrepancy はなにを意味するか. *医学のあゆみ* 209: 545-549, 2004
12. 成田光生: 脳炎、脳症、髄膜炎 - 中枢神経の感染・炎症・免疫. *マイコプラズマ脳炎*. *小児内科* 36: 1121-1124, 2004
13. 成田光生: マクロライド耐性マイコプラズマの最近の知見と臨床上の問題点. *小児科* 45: 2321-2326, 2004
14. 成田光生: 小児のマイコプラズマ肺炎. *感染と抗菌薬* 7: 281-286, 2004
15. 成田光生: *マイコプラズマ*. 佐川慶介、尾内一信 共編 *小児の肺炎 医薬ジャーナル* 大阪. 195-200, 2004

16. 田中裕士、藤井 偉、成田光生、阿部庄作：呼吸器感染症の診断と治療．マイコプラズマ．日本胸部臨床 63： S93-100， 2004
17. 田中裕士、成田光生： マイコプラズマ感染時の宿主反応．最新医学 59： 2530-2536， 2004
18. 中山雅之、成田光生： マクロライド耐性マイコプラズマ野生株の分離とその性状解析．第 29 回札幌市医師会医学会誌 札幌通信（増）： 155-156， 2004

学会発表

全国学会

1. 成田光生： ランチョンセミナー「マイコプラズマ感染症の何がどこまでわかっているか．病態解明への長い道」．第 78 会日本感染症学会、東京都、2004/4
2. Narita M: Current status of macrolide-resistant Mycoplasma pneumoniae in Japan. The 1st Meeting of the Asian Organization for Mycoplasmaology Luncheon seminar Tokyo, 2004/10
3. 成田光生： マイコプラズマ肺炎の迅速診断 - IgM 検査法を含めて．アボット感染症アワー ラジオ放送（講師）全国放送、2004/12
4. 穴倉迪彌、堀野清孝、中山雅之、出村 守、長野省五： 「子どもと伝染病」の利用状況．第 10 回日本保育園保健学会 パンフレット、東京都、2004/10

地方学会

1. 成田光生： マイコプラズマ感染症．診断、耐性菌、発症機構に関する最近の話題．第 5 回札幌マクロライド研究会 特別講演、札幌市、2004/1
2. 成田光生： マイコプラズマ感染症．診断、耐性菌、発症機構に関する最近の話題．第 12 回福岡小児感染研究会 特別講演、福岡市、2004/3
3. 成田光生： マイコプラズマ感染症．診断、耐性菌、発症機構に関する最近の話題．第 10 回熊本小児感染研究会 特別講演、熊本市、2004/5
4. 成田光生： マイコプラズマ感染症．診断、耐性菌、発症機構に関する最近の話題．第 6 回広島小児感染症フォーラム 特別講演、広島市、2004/9
5. 成田光生： マイコプラズマの耐性機序．第 5 回三河耐性菌感染症研究会 特別講演、名古屋市、2004/10
6. 前田 整、氏家みどり、成田光生、中山雅之： 当院心理療法室の小児科領域での利用状況．第 84 回交通医学会地方会、札幌市、2004/9

北海道医療大学医科歯科クリニック

所属メンバー

- ・寺井 格（主任医長、昭和60年卒）

専門外来

病院全体の医師数 23人
小児科医師数 1人 (うち非常勤 0人)

病院全体の病床数 19床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 0床
NICU 病床数 0床
新生児病床数(NICU を除く) 0床

NICU としての認定 あり、(なし)

平均小児科外来数 21.2人/日
平均時間外外来数 0人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 244人/年
年間のべ入院患者数 2,524人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 0人/年

年間分娩数 0人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 0人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 0人/年
年間呼吸管理患者数 0人/年

病院運営の保育所併設の有無 あり、(なし)
ありの場合、24 時間対応の有無 あり、なし
なしの場合、近隣の保育所の有無 あり、(なし)
その 24 時間対応の有無 あり、(なし)
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 1, 5 ヶ月
産後 2 ヶ月
育児休暇の期間 10 ヶ月

発表論文の詳細

1. 寺井 格、中山憲司、桂 英二、斉藤明子、西村一彦：先天性銅代謝異常症（ウィルソン病）の包括的医療システムの構築 - 3歳児検診を利用したウィルソン病スクリーニング導入．平成14年度 北海道庁総合企画部重点領域特別研究事業 分担研究報告書「酸化ストレスによるマンノース結合レクチン(MBL)の誘導」：2004/4

学会発表

全国学会

1. 寺井 格、小林邦彦、Vaerman J.P、真船直樹、中山憲司：MBLのIgA腎症への関与の可能性．第51回日本臨床検査医学会総会・第44回日本臨床化学会年会連合大会、東京都、2004/9

地方学会

なし

愛育病院

所属メンバー

- ・加藤幹子（昭和60年卒）

専門外来

病院全体の医師数 12人
小児科医師数 1人 (うち非常勤 0人)

病院全体の病床数 180床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 2床
NICU 病床数 0床
新生児病床数(NICU を除く) 0床

NICU としての認定 あり、(なし)

平均小児科外来数 14人/日
平均時間外外来数 0～1人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 143人/年
年間のべ入院患者数 691人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 6人/年

年間分娩数 0人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 0人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 0人/年
年間呼吸管理患者数 0人/年

病院運営の保育所併設の有無 あり、(なし)
ありの場合、24 時間対応の有無 あり、(なし)
なしの場合、近隣の保育所の有無 (あり)、なし
その 24 時間対応の有無 (あり)、なし
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 8週
産後 6週
育児休暇の期間 1歳未満

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

札幌北楡病院

所属メンバー

- ・安田一恵（小児科部長、昭和60年卒）
- ・越後谷雅代（小児科医員（非常勤）、昭和6年卒 平成16年4月～）
- ・小林邦彦（小児科顧問）
- ・
- ・
- ・
- ・

専門外来

病院全体の医師数 48人 (うち研修医6, 顧問2)
小児科医師数 2 + 1人 (うち非常勤 1人)

病院全体の病床数 231床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 0 ~ 5床
NICU 病床数 0床
新生児病床数(NICU を除く) 0床

NICU としての認定 あり、(なし)

平均小児科外来数 16人/日 (予防接種は全て除く)
平均時間外外来数 ほとんど0人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 80人/年
年間のべ入院患者数 431人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 ほとんど0人/年

年間分娩数 0人/年 産科なし
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 人/年
年間呼吸管理患者数 人/年

病院運営の保育所併設の有無 あり、(なし)
ありの場合、24 時間対応の有無 あり、なし
なしの場合、近隣の保育所の有無 (あり)、なし
その 24 時間対応の有無 あり、(なし)
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 6週
産後 8週
育児休暇の期間 12ヵ月

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

1. 安田一恵、小林邦彦、越後谷雅代：インフルエンザB感染に伴うと考えられる多形滲出性紅斑の一例．第261回日本小児科学会北海道地方会、札幌市、2004/11/28

楡の会こどもクリニック

所属メンバー

- ・石川 丹 (院長、昭和48年卒)
- ・末田慶太郎 (医長、平成11年卒)
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

専門外来

病院全体の医師数 3人
 小児科医師数 2人 (うち非常勤 1人)

病院全体の病床数 19床
 小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 5床 (14床はショートステイ)
 NICU 病床数 1床
 新生児病床数(NICU を除く) 1床

NICU としての認定 あり、なし

平均小児科外来数 90人/日 *小児科医診察は15人/日 残りは
 リハビリテーションのために受診

平均時間外外来数 0.1人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 30人/年
 年間のべ入院患者数 180人/年 (入院患者数×入院日数)
 年間時間外入院患者数 5人/年

年間分娩数 0人/年
 年間低出生体重児(2,500g 未満)数 50人/年
 極低出生体重児(1,500g 未満)数 30人/年
 年間呼吸管理患者数 10人/年 } 外来通院数

病院運営の保育所併設の有無 あり、なし
 ありの場合、24時間対応の有無 あり、なし
 なしの場合、近傍の保育所の有無 あり、なし
 その24時間対応の有無 あり、なし
 産前・産後休暇の一般的な期間 産前 1.5ヵ月
産後 2ヵ月
 育児休暇の期間 10ヵ月

発表論文の詳細

1. 石川 丹：交互性紡錘波、右視床と両側後頭葉の血流低下を認めた行為障害の1例。
臨床小児医学 52: 105-108, 2004
2. 石川 丹：自閉症 - 理解と対応 - . 小児科臨床 57 増刊号 : 1525-1532, 2004
3. 石川 丹：小児のてんかん症候群 大田原症候群. 波 29: 148-149, 2005
4. 石川 丹：虐待する親の心、される子の心 - 虐待予防 - . 小児科臨床 58: 903-908, 2005
5. 石川 丹：メンタルヘルスにおける最近のトピックス - 乳幼児虐待 - . 道医シリーズ
第 44 篇 (生涯教育シリーズ XVI) メンタルヘルスケア、北海道医師会: 24-26, 2005

学会発表

全国学会

1. 石川 丹：児童虐待とその予防的対応. 日本赤ちゃん学会第5会学術集会 シンポジウム4 育てにくいと写る子の理解と対応 - 子育て困難の実像と虚像 - 、札幌市、2005/7/3

地方学会

1. 石川 丹：軽度発達障害の理解と対応. 紋別保健所平成16年度思春期保健専門研修講座、上湧別町文化センターTOM、2005/2/10
2. 石川 丹：「いいところ見つけ・いいこと作れ」発達カウンセリング～小児神経精神科医の経験から～. 北海道 K-ABC アセスメント研究会、ちえりあ、2005/4/23

江別市立病院

所属メンバー

- ・ 梶井直文 (主任部長、昭和51年卒)
- ・ 信太 知 (部長、昭和59年卒)
- ・ 鈴木雄治 (部長、平成3年卒)
- ・ 築詰紀子 (医師、平成10年卒)
- ・
- ・
- ・

専門外来

- 神経・発達外来 (×1/週)
- 心臓外来 (×1/週)
- アレルギー・肥満・夜尿外来 (×1/週)
- 腎臓外来 (×1/月)(出張医)
- 血液外来 (×1/2月)(出張医)

病院全体の医師数 48人
小児科医師数 4人 (うち非常勤 0人)

病院全体の病床数 408床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 20床
NICU 病床数 0床
新生児病床数(NICU を除く) 2床

NICU としての認定 あり、(なし)

平均小児科外来数 83.4人/日
平均時間外外来数 3.3人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 1,499人/年
年間のべ入院患者数 8,244人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 404人/年

年間分娩数 382人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 25人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 0人/年
年間呼吸管理患者数 0人/年

病院運営の保育所併設の有無 あり、(なし)
ありの場合、24 時間対応の有無 あり、(なし)
なしの場合、近隣の保育所の有無 (あり)、なし
その 24 時間対応の有無 あり、(なし)
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 2 ヶ月
産後 2 ヶ月
育児休暇の期間 最長 36 ヶ月

発表論文の詳細

梶井直文：中毒によるけいれん・意識障害の診察ポイント.小児内科 35:328-330,2003
(平成15年度未提出分)

学会発表

全国学会

1. 鈴木雄治：機能MRIの問題点とその有用性. 第13回日本LD学会 シンポジウム「読み書き障害の医学的評価」、東京都、2004/8/27-28

地方学会

1. 末田慶太郎、鈴木雄治、信太 知、梶井直文：Toxic shock syndrome に副腎皮質ステロイドが著効を示した一例. 第260回日本小児科学会北海道地方会、旭川市、2004/5/16
2. 末田慶太郎、鈴木雄治、信太 知、梶井直文：アレルギー性紫斑病に合併した蛋白漏出性胃腸症にステロイドが著効を示した一例. 第259回日本小児科学会北海道地方会、札幌市、2004/1/25 (平成15年度未提出分)

市立美唄病院

所属メンバー

- ・永田 康 （主任医長、昭和50年卒）
- ・小川泰弘 （医長、昭和61年卒）

専門外来

心臓外来（×1/月）

内分泌外来（×1/月）

病院全体の医師数	13人
小児科医師数	2人 (うち非常勤 0人)

病院全体の病床数	240床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	19床
NICU 病床数	0床
新生児病床数(NICU を除く)	0床

NICU としての認定 あり、なし

平均小児科外来数	112人/日
平均時間外外来数	6人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	246人/年
年間のべ入院患者数	2,555人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	80人/年

年間分娩数	人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	人/年
年間呼吸管理患者数	人/年

平成16年8月をもって
産科閉鎖

病院運営の保育所併設の有無	あり、 <u>なし</u>
ありの場合、24時間対応の有無	あり、なし
なしの場合、近隣の保育所の有無	<u>あり</u> 、なし
その24時間対応の有無	あり、 <u>なし</u>
産前・産後休暇の一般的な期間	産前 7週間目 産後 2ヵ月
育児休暇の期間	3歳に達するまで

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

市立三笠総合病院

所属メンバー

- ・三山隆司（昭和45年卒）

専門外来

心臓外来（×1/年）

病院全体の医師数 14人
小児科医師数 1人 (うち非常勤 0人)

病院全体の病床数 279床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 5床
NICU 病床数 0床
新生児病床数(NICU を除く) 2床

NICU としての認定 あり、なし

平均小児科外来数 22人/日
平均時間外外来数 人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 83人/年
年間のべ入院患者数 263人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 30人/年

年間分娩数 24人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 0人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 0人/年
年間呼吸管理患者数 0人/年

病院運営の保育所併設の有無 あり、なし
ありの場合、24 時間対応の有無 あり、なし
なしの場合、近隣の保育所の有無 あり、なし
その 24 時間対応の有無 あり、なし
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 7 週
産後 8 週
育児休暇の期間 3 年 (児が 3 歳に達する日まで)

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

栗山赤十字病院

所属メンバー

・越 和子（昭和49年卒）

専門外来

心臓外来（×2/年） 上野倫彦先生

病院全体の医師数	10人
小児科医師数	1人 (うち非常勤 人)

病院全体の病床数	161床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	6床
NICU 病床数	0床
新生児病床数(NICU を除く)	0床

NICU としての認定 あり、(なし)

平均小児科外来数	37.1人/日
平均時間外外来数	3.2人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	150人/年
年間のべ入院患者数	752人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	37人/年

年間分娩数	人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	人/年
年間呼吸管理患者数	1人/年

病院運営の保育所併設の有無	あり、なし
ありの場合、24 時間対応の有無	あり、なし
なしの場合、近隣の保育所の有無	あり、なし
その 24 時間対応の有無	あり、なし
産前・産後休暇の一般的な期間	産前 カ月
	産後 カ月
育児休暇の期間	カ月

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

市立小樽病院

所属メンバー

- ・柴田睦郎（医療部長、昭和55年卒）
- ・岩井 崇（医長、昭和58年卒）

専門外来

心臓外来（×1/月）

神経外来（×1/2月）

病院全体の医師数 40人
小児科医師数 3人 (うち非常勤 1人)

病院全体の病床数 473床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 25床
NICU 病床数 0床
新生児病床数(NICU を除く) 2床

NICU としての認定 あり、(なし)

平均小児科外来数 48人/日
平均時間外外来数 2人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 353人/年
年間のべ入院患者数 1,642人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 25人/年

年間分娩数 159人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 12人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 0人/年
年間呼吸管理患者数 0人/年

病院運営の保育所併設の有無 (あり、なし)
ありの場合、24 時間対応の有無 あり、(なし)
なしの場合、近隣の保育所の有無 (あり、なし)
その 24 時間対応の有無 あり、(なし)
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 2 ヶ月
産後 2 ヶ月
育児休暇の期間 産後 8 週から 3 歳の誕生日の前日までの
期間内で希望する期間

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

1. 柴田睦郎: 「赤ひげ」を評価する - その実像と虚像のはざままで 赤ひげの経済的側面. ファイザーヘルスリサーチ振興財団 第1回ヘルスリサーチワークショップ、2005/1/29-30

地方学会

なし

倶知安厚生病院

所属メンバー

- ・奥野章裕（主任部長、昭和55年卒）
- ・森田啓介（医長、平成元年卒）

専門外来

心臓外来（×1/月）

病院全体の医師数 30人
小児科医師数 2人 (うち非常勤 0人)

病院全体の病床数 392床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 16床
NICU 病床数 0床
新生児病床数(NICU を除く) 3床

NICU としての認定 あり、(なし)

平均小児科外来数 55人/日
平均時間外外来数 3人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 528人/年

年間のべ入院患者数 3,299人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 106人/年

年間分娩数 357人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 27人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 0人/年
年間呼吸管理患者数 0人/年

病院運営の保育所併設の有無 (あり)、なし
ありの場合、24 時間対応の有無 あり、(なし)
なしの場合、近傍の保育所の有無 (あり)、なし
その 24 時間対応の有無 あり、(なし)
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 6 週間前 (多胎妊婦の場合 14 週間)
産後 8 週間
育児休暇の期間 14 ヶ月

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

岩内協会病院

所属メンバー

- ・ 浜崎和朗 （医長、平成5年卒）

専門外来

免疫アレルギー （川村先生 × 1 / 2、3ヶ月）

神経 （白石先生 × 1 / 3ヶ月）

病院全体の医師数 11人
小児科医師数 1人 (うち非常勤 0人)

病院全体の病床数 240床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 6床
NICU 病床数 0床
新生児病床数(NICU を除く) 0床

NICU としての認定 あり、なし

平均小児科外来数 48.6人/日
平均時間外外来数 1人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 163人/年
年間のべ入院患者数 737人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 45人/年

年間分娩数 0人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 0人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 0人/年
年間呼吸管理患者数 0人/年

病院運営の保育所併設の有無 あり、なし
ありの場合、24 時間対応の有無 あり、なし
なしの場合、近隣の保育所の有無 あり、なし
その 24 時間対応の有無 あり、なし
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 7 週
産後 8 週
育児休暇の期間 12 ヶ月

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

市立千歳市民病院

所属メンバー

- ・ 武越靖郎 (主任医長・医療参与、昭和42年卒)
- ・ 今村啓作 (医長、昭和63年卒)(平成16年4月～)
- ・ 鈴木秀久 (医長、平成7年卒)(平成16年4月～平成17年3月)
- ・ 佐藤亜矢子 (医師、平成8年卒)(平成16年4月～)

専門外来

- 心臓外来 (×2/月)
- 内分泌外来 (×2/月)
- 神経外来 (×2/月)

病院全体の医師数 30人
小児科医師数 4人 (うち非常勤 0人)

病院全体の病床数 190床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 20床
NICU 病床数 0床
新生児病床数(NICU を除く) 2床

NICU としての認定 あり、(なし)

平均小児科外来数 104.6人/日
平均時間外外来数 15.0人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 747人/年
年間のべ入院患者数 4121人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 191人/年

年間分娩数 70人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 7人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 0人/年
年間呼吸管理患者数 0人/年

病院運営の保育所併設の有無 (あり、なし)
ありの場合、24 時間対応の有無 あり、(なし)
なしの場合、近隣の保育所の有無 (あり、なし)
その 24 時間対応の有無 あり、(なし) 無認可であれば市内に有
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 2 ヶ月
産後 2 ヶ月
育児休暇の期間 36 ヶ月未満

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

恵み野病院

所属メンバー

- ・畑江芳郎（昭和44年卒）
- ・日野和雄（第1，3金曜午後）

専門外来

病院全体の医師数 30人
小児科医師数 3人 (うち非常勤 2人)

病院全体の病床数 200床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 床
NICU 病床数 0床
新生児病床数(NICU を除く) 0床

NICU としての認定 あり、なし

平均小児科外来数 9.72人/日
平均時間外外来数 人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 102人/年
年間のべ入院患者数 608人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 人/年

年間分娩数 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 人/年
年間呼吸管理患者数 人/年

病院運営の保育所併設の有無 あり、なし
ありの場合、24 時間対応の有無 あり、なし
なしの場合、近隣の保育所の有無 あり、なし
その 24 時間対応の有無 あり、なし
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 6 ヶ月
産後 8 ヶ月
育児休暇の期間 10 ヶ月

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

1 . 常俊雄介、中村貴久、橋本 卓、小倉正臣、長谷泰司、近藤 博、畑江芳郎：トウモロコシ摂取後に発症した Meckel 憩室炎穿孔の 1 例．第 7 2 回日本小児外科学会北海道地方会、札幌市、2005/3/5

王子総合病院

所属メンバー

- ・小林徳雄（主任科長、昭和61年卒）
- ・石川友一（科長、平成9年卒）
- ・鈴木大介（科長、平成12年卒）
- ・秋元琢真（科長、平成15年卒）
- ・八鍬 聡（主任科長、平成6年卒）(平成16年4月～9月)

専門外来

- 心臓外来（×1/月）北大 村上先生
- 神経外来（×1/週）小林
- 腎臓外来（×1/月）北大 佐々木先生
- 内分泌外来（×1/月）北大 田島先生

病院全体の医師数 56人
小児科医師数 4.5人 (うち非常勤 0人)

病院全体の病床数 440床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 23床
NICU 病床数 5床
新生児病床数(NICU を除く) 0床

NICU としての認定 あり、(なし)

平均小児科外来数 88.3人/日
平均時間外外来数 5.7人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 1,274人/年
年間のべ入院患者数 9,484人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 261人/年

年間分娩数 538人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 69人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 13人/年
年間呼吸管理患者数 19人/年

病院運営の保育所併設の有無 (あり、なし)
ありの場合、24 時間対応の有無 あり、(なし)
なしの場合、近隣の保育所の有無 (あり、なし)
その 24 時間対応の有無 あり、(なし)
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 1.5 ヶ月
産後 2 ヶ月
育児休暇の期間 満 1 歳に達するまで

発表論文の詳細

1. 鈴木大介、高橋有美、山澤弘州、八鍬 聡、小林徳雄：胸部X線にて偶然発見された胸部腎の1乳児例．小児科 45(13)：2247-2248，2004
2. 鈴木大介、高橋有美、山澤弘州、八鍬 聡、小林徳雄、鈴木克徳：仙骨神経叢への炎症波及を画像診断できた化膿性仙腸関節炎の1例．小児科 45(9)：1656-1660，2004

学会発表

全国学会

1. 石川友一他：大動脈縮窄症術後の早期圧反射が左室圧負荷を増大する．第40回日本小児循環器学会、2004/6/3

地方学会

1. 石川友一他：ベラプロストナトリウム投与により肺動脈圧が正常化した原発性肺高血圧の一例．第4回北海道発達循環フォーラム、2004/10/2
2. 鈴木大介他：胸部X線にて偶然発見された胸部腎の1乳児例．苫小牧小児科医会、2004/12/1
3. 秋元琢真他：当科に入院した初発尿路感染症の尿路系異常の検討．日本小児科学会北海道地方会第262回例会、2005/2/27

白老町立国保病院

所属メンバー

- ・北大小児科からの出張医

専門外来

病院全体の医師数 6人
小児科医師数 0人 (うち非常勤1人)・・・3月末までの状況

病院全体の病床数 98床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 0床
NICU 病床数 0床
新生児病床数(NICU を除く) 0床

NICU としての認定 あり、(なし)

平均小児科外来数 7.4人/日
平均時間外外来数 0人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 0人/年
年間のべ入院患者数 0人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 0人/年

年間分娩数 0人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 0人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 0人/年
年間呼吸管理患者数 0人/年

病院運営の保育所併設の有無 あり、(なし)
ありの場合、24 時間対応の有無 あり、なし
なしの場合、近隣の保育所の有無 あり、(なし)
その 24 時間対応の有無 あり、(なし)
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 カ月
産後 カ月
育児休暇の期間 カ月

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

日鋼記念病院

所属メンバー

- ・岩田正道（主任科長 昭和62年卒）
- ・小野 暁（科長 昭和63年卒）
- ・末田慶太郎（平成11年卒）
- ・塩野展子（平成11年卒 ~平成16年6月）
- ・大島淳二郎（平成11年卒 平成16年7月~）
- ・内田麻子（平成14年卒 平成16年4月~）
- ・伊丹儀友（腎センター所長 昭和52年卒）

専門外来

- 心臓外来（×1/月）
- 神経外来（×2/月）
- 血液外来（×1/2月）
- 内分泌外来（×1/3月）
- 遺伝外来（×1/3月）
- 発達外来（×7/月）

病院全体の医師数 101人
小児科医師数 5人 (うち非常勤 0人)

病院全体の病床数 521床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 28床
NICU 病床数 3床
新生児病床数(NICU を除く) 5床

NICU としての認定 (あり) なし

平均小児科外来数 59人/日
平均時間外外来数 10人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 720人/年
年間のべ入院患者数 7500人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 250人/年

年間分娩数 360人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 70人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 20人/年
年間呼吸管理患者数 30人/年

病院運営の保育所併設の有無 (あり) なし
ありの場合、24 時間対応の有無 (あり) なし
なしの場合、近隣の保育所の有無 あり、なし
その 24 時間対応の有無 あり、なし
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 1.5 ヶ月
産後 2 ヶ月
育児休暇の期間 12 ヶ月

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

新日鐵室蘭総合病院

所属メンバー

- ・奥原宏治（小児科長、平成4年卒）
- ・中本 哲（小児科医長、平成11年卒）

専門外来

- 心臓外来（×2/月）間 峡介先生
- 神経外来（×1/月）田島敏広先生
- 腎臓外来（×1/月）栃丸博幸先生
- 内分泌外来（×1/3ヶ月）香坂 忍先生

病院全体の医師数 49人
小児科医師数 2人 (うち非常勤 1人)

病院全体の病床数 347床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 9床
NICU 病床数 0床
新生児病床数(NICU を除く) 5床

NICU としての認定 あり、なし

平均小児科外来数 37.4人/日
平均時間外外来数 6.4人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 758人/年
年間のべ入院患者数 3,778人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 141人/年

年間分娩数 564人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 33人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 2人/年
年間呼吸管理患者数 0人/年

病院運営の保育所併設の有無 あり、なし (3歳まで)
ありの場合、24時間対応の有無 あり、なし
なしの場合、近隣の保育所の有無 あり、なし
その24時間対応の有無 あり、なし
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 6週間
産後 8週間
育児休暇の期間 産前後休暇を含め1年間

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

伊達赤十字病院

所属メンバー

- ・田原泰夫（昭和59年卒）
- ・小野寺隆（昭和60年卒 平成16年9月より勤務）

専門外来

神経外来（小野寺）

病院全体の医師数 30人
小児科医師数 3人 (うち非常勤 1人)

病院全体の病床数 374床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 14床
NICU 病床数 0床
新生児病床数(NICU を除く) 0床
しかし 227例の新生児入院がありました。

NICU としての認定 なし

平均小児科外来数 48.5人/日
平均時間外外来数 5.4人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 698/年

年間のべ入院患者数 3,995人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 101人/年

年間分娩数 373人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 22人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 0人/年
年間呼吸管理患者数 3人/年

病院運営の保育所併設の有無 あり
ありの場合、24 時間対応の有無 なし
なしの場合、近傍の保育所の有無
その 24 時間対応の有無
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 7 週間
産後 8 週間
育児休暇の期間 3 6 ヶ月

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

市立旭川病院

所属メンバー

- ・小西貴幸 (診療部長 昭和54年卒)
- ・佐竹 明 (診療部長 昭和62年卒)
- ・山澤弘州 (平成11年卒 ~平成17年3月)
- ・里見達郎 (平成11年卒 ~平成17年3月)
- ・高橋有美 (平成13年卒 ~平成17年3月)

専門外来

- 心臓外来 (×1/週)
- 川崎病外来 (×1/週)
- 神経外来 (×1/週)
- 腎臓外来 (×1/月)
- 血液外来 (×1/月)

病院全体の医師数 89人
小児科医師数 5人 (うち非常勤 0人)

病院全体の病床数 596床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 25床
NICU 病床数 床
新生児病床数(NICU を除く) 2床

NICU としての認定 あり、(なし)

平均小児科外来数 70 - 90人/日
平均時間外外来数 5人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 1,000人/年
年間のべ入院患者数 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 200 - 300人/年

年間分娩数 250 - 300人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 20 - 30人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 0人/年
年間呼吸管理患者数 0人/年

病院運営の保育所併設の有無 (あり)、なし
ありの場合、24 時間対応の有無 あり、(なし)
なしの場合、近隣の保育所の有無 (あり)、なし
その 24 時間対応の有無 (あり)、なし
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 2 ヶ月
産後 2 ヶ月
育児休暇の期間 カ月

発表論文の詳細

1. 内田麻子、佐藤亜矢子、三野絵美、佐竹 明、小西貴幸：発症時年齢4歳以上の川崎病の検討．旭市病誌 36：1-4，2005

学会発表

全国学会

なし

地方学会

1. 小西貴幸：自傷行為が顕著なアスペルガー症候群の16歳女子について．第1回北海道小児心身医学研究会、札幌市、2004/8/1
2. 里見達郎、高橋有美、山澤弘州、佐竹 明、小西貴幸：急性心筋炎の一乳児例．第107回旭川心臓を診る会、2004/8/20
3. 山澤弘州、高橋有美、里見達郎、佐竹 明、小西貴幸：診断に苦慮した炎症性腸疾患の3例．日本小児科学会北海道地方会第261回例会、札幌市、2004/11/28
4. 高橋有美、里見達郎、山澤弘州、佐竹明、小西貴幸：学校検尿で発見された慢性腎不全の一例～家族の協力が不十分な場合の治療計画～．第25回道北小児科懇話会、旭川市、2004/12/18
5. 里見達郎、高橋有美、山澤弘州、佐竹 明、小西貴幸：急性巣状細菌性腎炎の4例．日本小児科学会北海道地方会第262回例会、札幌市、2005/2/27
6. 小西貴幸：子どもを見守り、支えるということ．平成16年度北空知高等学校教育相談研究会（講演）、妹背牛町、2004/10/29

北見赤十字病院

所属メンバー

- ・石川信義（昭和41年卒）
- ・三河 誠（昭和50年卒）
- ・小林一郎（昭和59年卒）
- ・斉田吉伯（平成5年卒 平成16年10月より）
- ・大倉有加（平成13年卒）
- ・古瀬優太（平成15年卒）
- ・古山秀人（平成4年卒）
- ・常松香里（平成11年卒 平成16年9月まで）

専門外来

- 未熟児外来（×1/週）
- 発達外来（×1/週）
- ことばの外来（×1/週）
- 心臓外来（×1/週）
- アレルギー免疫外来（×1/週）
- 内分泌外来（×1/週）
- 神経外来（北大出張医）（×1/月）
- 血液外来（北大出張医）（×1/月）
- 遺伝外来（信州大出張医）（×1/年）

病院全体の医師数	104人 (研修医30人)
小児科医師数	6人 (うち非常勤 人)

病院全体の病床数	695床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	34床
NICU 病床数	6床
新生児病床数(NICU を除く)	18床

NICU としての認定 あり なし

平均小児科外来数	135人/日
平均時間外外来数	10人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	1,729人/年
年間のべ入院患者数	15,760人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	454人/年

年間分娩数	525人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	88人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	12人/年
年間呼吸管理患者数	25人/年

病院運営の保育所併設の有無	あり なし
ありの場合、24 時間対応の有無	あり なし
なしの場合、近隣の保育所の有無	あり、なし
その 24 時間対応の有無	あり、なし
産前・産後休暇の一般的な期間	産前 7 週 産後 8 週
育児休暇の期間	36 ヶ月

発表論文の詳細

1. Kobayashi I, Kawamura N, Okano M, Sageshima S, Nakayama T, Ohyu J and Kobayashi K: Thrombocytopenia in juvenile dermatomyositis. Scand J Rheumatol in press
2. 大倉有加、古瀬優太、斉田吉伯、古山秀人、小林一郎、三河 誠、石川信義: Cantrell 症候群の 1 例. 小児科 46(9)

学会発表

全国学会

地方学会

1. 大倉有加、古瀬優太、斉田吉伯、古山秀人、小林一郎、三河 誠、石川信義: Cantrell 症候群の一例. 北海道地方会第 261 回例会、札幌市、2004/11/28
2. 大倉有加、古瀬優太、古山香里、斉田吉伯、古山秀人、小林一郎、三河 誠、石川信義: 強度の視力障害で発症し多発性硬化症と考えられた 1 例. 北海道小児リウマチ性疾患研究会
3. 古瀬優太、大倉有加、古山香里、斉田吉伯、小林一郎、三河 誠、石川信義: 新生児早期に発症したメチルマロン酸血症の 1 例. 北海道地方会第 262 回例会
4. 小林 一郎: Immune dysregulation, polyendocrinopathy, enteropathy, X-linked syndrome (IPEX)における自己抗原の検討と遺伝子解析. オホーツク臨床免疫懇話会、2004/7

美幌町立国保病院

所属メンバー

- ・板倉 治（主任医長、昭和61年卒）

専門外来

病院全体の医師数 6人
小児科医師数 1人 (うち非常勤 0人)

病院全体の病床数 99床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 10床
NICU 病床数 0床
新生児病床数(NICU を除く) 床 特に規定なし

NICU としての認定 あり、(なし)

平均小児科外来数 45人/日
平均時間外外来数 1人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 469人/年
年間のべ入院患者数 1,239人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 107人/年

年間分娩数 0人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 0人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 0人/年
年間呼吸管理患者数 0人/年

病院運営の保育所併設の有無 あり、(なし)

ありの場合、24 時間対応の有無 あり、なし

なしの場合、近隣の保育所の有無 (あり)、なし

その 24 時間対応の有無 あり、(なし)

産前・産後休暇の一般的な期間 産前 2 ヶ月

産後 2 ヶ月

育児休暇の期間 36 ヶ月

(12 ヶ月までは手当有り、その後はなし)

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

函館中央病院

所属メンバー

- ・山田 豊 (副院長、昭和47年卒)
- ・水上 晋 (科長、昭和59年卒)
- ・木田 毅 (医長、昭和60年卒)
- ・大湯淳功 (医長、昭和63年卒)
- ・佐々木真樹 (医長、平成2年卒)
- ・柳生一自 (医員、平成12年卒)
- ・植田佑樹 (医員、平成15年卒)

専門外来

- 神経外来 (×2/週)
- 心臓外来 (×1/週)
- 未熟児外来 (×2/週)
- 発達外来 (×1/週)
- 血液外来 (×1/月)
- 腎臓外来 (×1/3ヶ月)

病院全体の医師数	91人
小児科医師数	7人 (うち非常勤 0人)

病院全体の病床数	600床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	30床
NICU 病床数	6床
新生児病床数(NICU を除く)	19床

NICU としての認定 あり、なし

平均小児科外来数	61.3人/日
平均時間外外来数	7.3人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	1,599人/年
年間のべ入院患者数	15,026人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	929人/年

年間分娩数	703人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	21人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	11人/年
年間呼吸管理患者数	30人/年

病院運営の保育所併設の有無	<u>あり</u> 、なし
ありの場合、24 時間対応の有無	<u>あり</u> 、なし
なしの場合、近隣の保育所の有無	あり、なし
その 24 時間対応の有無	あり、なし
産前・産後休暇の一般的な期間	産前 6 週 産後 8 週
育児休暇の期間	最大で子が 3 歳に達する日まで

発表論文の詳細

1. 大湯淳功: 両側脳室前角周囲に嚢胞を認めた極低出生体重児の一例. 函館中央病院医誌. 2003/8/21
2. 大湯淳功: 新生児の脳の特異性. 新生児の疾患治療ケア ネオネイタルケア 2005年春季増刊: 50-53, 2005

学会発表

全国学会

なし

地方学会

1. 山田 豊: 函館市プレネータルビジットモデル事業について. 北海道母子保健研修会シンポジスト、札幌市、2003/12/4
2. 山田 豊 他: 道南の新生児・未熟児医療の進歩. 函館産科小児科医会 30周年記念講演会特別講演、2004/2/25
3. 水上 晋: キシロカインが有効だったてんかんの1例. 北日本小児科学会、2003/8/30
4. 大湯淳功: 低血糖・痙攣・脳障害を認めた新生児の1例. 函館小児科医会症例検討会、2003/6/17
5. 佐々木真樹: 身体障害者の歯科治療 - 小児心疾患患者の治療に際して - . 函館歯科医師会公演、2003/12/14
6. 柳生一自 他: 特発性血小板減少性紫斑病(ITP)・骨髄異形成症候群(MDS)の鑑別に苦慮した Ringed Turner Syndrome の1例. 北日本小児科学会、盛岡市、2004/9/18
7. 柳生一自 他: 頸部リンパ節腫脹にて発見された Langerhans cell histiocytosis の1例. 函館小児科医会症例検討会、2004/6/16
8. 柳生一自: 頸部リンパ節腫脹をきたした1歳女児例. 函館小児科医会症例検討会、2004/6/16
9. 植田佑樹 他: 開腹手術で診断のついた腸回転異常を伴わない中腸軸捻転の1例. 青函小児科懇親会、2004/8/28
10. 佐々木真樹: 感染症に合併した不整脈. 函館小児循環器研究会、2004/8/19
11. 佐々木真樹: 肺炎を繰り返した1症例. 函館小児科医会症例検討会、2004/12/3
12. 水上 晋: プロテインS欠乏症の1例. 道南医学会、2004/11/10

函館五稜郭病院

所属メンバー

- ・遠藤満智子（主任医長 昭和45年卒）
- ・阿部修司（医長 平成3年卒）
- ・藤田祥二（医師 平成7年卒）
- ・伊東広臨（医師 平成12年卒）
- ・寺本 忍（医師 平成13年卒）

専門外来

- 神経外来（×1/月）
- 血液外来（×1/月）
- 腎臓外来（×1/6月）
- 遺伝外来（×1/年）
- 内分泌外来（×2/週）

病院全体の医師数	77人
小児科医師数	5人 (うち非常勤 0人)

病院全体の病床数	586床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	46床
NICU 病床数	0床
新生児病床数(NICU を除く)	4床

NICU としての認定 あり、(なし)

平均小児科外来数	60人/日
平均時間外外来数	5.7人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	1,314人/年
年間のべ入院患者数	8,784人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	251人/年

年間分娩数	404人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	41人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0人/年
年間呼吸管理患者数	0人/年

病院運営の保育所併設の有無	(あり)、なし	但し、医師用ではなく看護師用。
ありの場合、24 時間対応の有無	(あり)、なし	医師用の保育所はありません。
なしの場合、近隣の保育所の有無	あり、なし	
その 24 時間対応の有無	あり、なし	
産前・産後休暇の一般的な期間	産前 1.4 ヶ月	
	産後 1.4 ヶ月	
育児休暇の期間		12 ヶ月

発表論文の詳細

1. 大倉有加: 肺嚢胞を契機に発見された気管支閉鎖症の1例. 小児科 44: 1463-1464, 2003
2. 遠藤満智子: 肥満小児と高尿酸血症. 小児科 44: 1523-1531, 2003
3. 遠藤満智子: 小児肥満の内臓脂肪面積. 第55回道南医学会雑誌 38: 205-207, 2003
4. 里見達郎: 遺伝性球状赤血球症の1例. 第55回道南医学会雑誌 38: 207-209, 2003
5. 遠藤満智子: メラノコルチン4型(MC4R)遺伝子異常. 成長曲線は語る 11: 12-13, 2004
6. Endo M, et al: The relationship between serum adiponectin levels and obesity-related factors in obese children. 12th International Congress of Endocrinology: 845-850, 2004
7. 稲本 潤 他: 可溶性インターロイキン2レセプターが異常高値を認めた anaplastic large cell lymphoma の1症例. 道南医学雑誌 39: 105-108, 2004
8. 藤田祥二 他: 免疫寛容導入を施行した重症血友病Bの1例. 臨床小児医学 52: 33-36, 2004
9. 藤田祥二 他: PET で特徴的画像を呈し、化学療法後に完全切除可能となった肝未分化肉腫の1例. 小児内科 36: 1506-1511, 2004
10. 稲本 潤 他: 小児原発性腸腰筋膿瘍2例の検討. 臨床小児医学 52: 9-14, 2004

学会発表

全国学会

1. 阿部修司: Currarino 症候群の双子例. 第107回日本小児科学会学術集会、2004/4/9
2. 遠藤満智子: The relationship between serum adiponectin levels and obesity related factors in obese children. 12th International Congress of Endocrinology、Lisbon、2004/9/1
3. 遠藤満智子: 肥満小児の身長. 第38回日本小児内分泌学会、神戸市、2004/9/20
4. 遠藤満智子: 肥満小児の身長と血清アディポネクチンとの関係. 第25回日本肥満学会、大阪市、2004/9/30

地方学会

1. 伊東広臨: 胆道造影3次元CTが有用であった先天性胆道拡張症の1例. 平成16年度第1回函館小児科医会症例検討会、函館市、2004/6/16
2. 寺本 忍: 熱性痙攣児の血清ナトリウムとADH. 第43回青函小児科懇話会、2004/8/28
3. 伊東広臨: 乳児期早期発症の原発性高血圧症と思われた1例. 第57回道南医学会、函

館市、2004/11/21

4. 阿部修司：喘息発作時におけるヒドロコルチゾンとメチルプレドのゾロン効果の比較．
日本小児科学会北海道地方会第261回例会、札幌市、2004/11/28
5. 阿部修司：先天性副腎過形成症における副腎エコーの有用性について．第26回北海道小児内分泌研究会、札幌市、2005/1/29

帯広協会病院

所属メンバー

- 松本憲則（外来診療部長、昭和 55 年卒）
- 青柳勇人（主任医長、平成 3 年卒）
- 大島淳二郎（医師、平成 11 年卒）(平成 15 年 4 月～16 年 6 月)
- 塩野展子（医師、平成 11 年卒）(平成 16 年 7 月～17 年 3 月)
- 稲本 潤（医師、平成 13 年卒）
- 岡本孝之（医師、平成 15 年卒）

専門外来

- 心臓外来（×1/週）
- 心エコー外来（×1/週）
- 発達外来（×1/週）
- 血液外来（×1/月）
- 内分泌外来（×1/3月）
- 神経外来（×1/3月）
- 腎外来（×1/3月）

病院全体の医師数	48 人
小児科医師数	5 人(うち非常勤 0 人)

病院全体の病床数	360 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	24 床
NICU病床数	3 床
新生児病床数(NICUを除く)	4 床

NICUとしての認定	なし
------------	----

平均小児科外来数	101.1 人/日
平均時間外外来数	8.1 人/日(小児科医が診察したもの)

年間入院患者数	1,578 人/年
年間延入院患者数	121,714 人/年
年間時間外入院患者数	434 人/年

年間分娩数	725 人/年
年間低出生体重児(2,500g未満)数	85 人/年
極低出生体重児(1,500g未満)数	8 人/年
年間呼吸管理患者数	21 人/年

病院運営の保育所併設の有無	あり
ありの場合、24時間対応の有無	なし
	(看護師の準夜帯勤務にまで対応)
なしの場合、近隣の保育所の有無	あり
その24時間対応の有無	あり
産前・産後休暇の一般的な期間	産前 7 週
	産後 8 週
育児休暇の期間	12ヵ月

発表論文

なし

学会発表

稲本 潤、岡本孝之、塩野展子、青柳勇人、松本憲則、丸山剛史：脾損傷後仮性脾嚢胞を生じた被虐待児症候群の1症例．日本小児科学会北海道地方会、札幌市、2004/11/28．

帯広厚生病院

所属メンバー

- ・ 提嶋俊一（主任部長、昭和51年卒）
- ・ 植竹公明（部長、昭和59年卒）
- ・ 小杉山清隆（医長、平成7年卒）
- ・ 田端祐一（医員、平成11年卒）
- ・ 小林穂高（医員、平成12年卒）
- ・ 市川瑞穂（医員、平成12年卒）

専門外来

心臓外来（×2/月）

血液外来（×1/月）

内分泌外来（×1/3ヶ月）

腎臓外来（×1/3ヶ月）

遺伝外来（×1/年）

神経外来（×1/週）

免疫アレルギー外来（×1/2ヶ月）

病院全体の医師数 115人
小児科医師数 6人 (うち非常勤 人)

病院全体の病床数 748床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 25床
NICU 病床数 12床
新生児病床数(NICU を除く) 0床

NICU としての認定 あり、(なし)

平均小児科外来数 125人/日
平均時間外外来数 13人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 1,274人/年
年間のべ入院患者数 12,436人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 436人/年

年間分娩数 529人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 47人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 15人/年
年間呼吸管理患者数 16人/年

病院運営の保育所併設の有無 (あり、なし)
ありの場合、24 時間対応の有無 あり、(なし)
なしの場合、近隣の保育所の有無 (あり、なし)
その 24 時間対応の有無 あり、(なし)
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 1.5 ヵ月
産後 2 ヵ月
育児休暇の期間 12 ヵ月

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

1. 小林穂高、植竹公明：偏頭痛による脳虚血から遷延する片麻痺、失語症を認めた1例。
第56回北日本小児科学会、盛岡市、2004/9/18

池田町立病院

所属メンバー

- ・屋敷憲章（昭和53年卒）

専門外来

病院全体の医師数	3人
小児科医師数	1人 (うち非常勤 人)

病院全体の病床数	80床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	0床
NICU 病床数	0床
新生児病床数(NICU を除く)	0床

NICU としての認定 あり、(なし)

平均小児科外来数	13人/日
平均時間外外来数	人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	2人/年
年間のべ入院患者数	4人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	人/年

年間分娩数	0人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	0人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0人/年
年間呼吸管理患者数	0人/年

-

病院運営の保育所併設の有無	あり、(なし)	
ありの場合、24 時間対応の有無	あり、(なし)	
なしの場合、近隣の保育所の有無	あり、(なし)	
その 24 時間対応の有無	あり、(なし)	
産前・産後休暇の一般的な期間	産前 2 ヶ月	} 法定通り
	産後 2 ヶ月	
育児休暇の期間	36 ヶ月	

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

釧路赤十字病院

所属メンバー

- ・永島哲郎（第1小児科部長、昭和50年卒）
- ・南雲 淳（第2小児科部長、平成1年卒）
- ・水島正人（第3小児科部長、平成4年卒）
- ・伊東広臨（第1小児科副部長、平成12年卒）
- ・大倉有加（小児科医師、平成13年卒）
- ・中村明枝（小児科医師、平成14年卒）（平成16年4月～平成17年7月）
- ・山崎 茂（小児科医師、平成15年卒）

専門外来

- 神経外来（毎週 永島）
- 心臓外来（毎週 南雲）
- 内分泌外来（3ヶ月ごと 藤枝）
- 血液・悪性腫瘍外来（3ヶ月ごと 小林）
- 腎臓外来（3ヶ月ごと 佐々木）
- 染色体外来（年1回 福島）

病院全体の医師数 58人
小児科医師数 7人 (うち非常勤 人)

病院全体の病床数 489床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 42床
NICU 病床数 9床
新生児病床数(NICU を除く) 6床

NICU としての認定 (あり) なし

平均小児科外来数 119人/日
平均時間外外来数 5人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 2,439人/年
年間のべ入院患者数 17,222人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 448人/年

年間分娩数 862人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 97人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 16人/年
年間呼吸管理患者数 20人/年

病院運営の保育所併設の有無 (あり) なし
ありの場合、24 時間対応の有無 (あり) なし
なしの場合、近隣の保育所の有無 あり、なし
その 24 時間対応の有無 あり、なし
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 7 週間
産後 8 週間
育児休暇の期間 36 ヶ月

* 何れも看護職員に対してのもので女性医師に関しては前例が無い。

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

1. 急速に進行し、リバビリン、IFN 脳室内投与を行った亜急性硬化症全脳炎(SSPE)の一例. 日本小児科学会北海道地方会第261回例会、札幌市、2004/11/28
2. メッケル憩室の癒着により腸閉塞をきたした一例. 日本小児科学会北海道地方会第262回例会、札幌市、2005/2/27
3. クエン酸投与で改善のみられた先天性ナトリウム下痢症の一例. 日本小児科学会北海道地方会第263回例会、旭川市、2005/7/3

釧路労災病院

所属メンバー

- ・ 仲西正憲（昭和56年卒）
- ・ 米川元晴（平成11年卒）
- ・ 竹崎俊一郎（平成13年卒）

専門外来

- 心臓循環器外来（×1/月）
- 血液腫瘍外来（×1/3ヶ月）
- 内分泌外来（×1、2/月）
- 慢性疾患外来（×1/週）

病院全体の医師数 68人
小児科医師数 3人 (うち非常勤 0人)

病院全体の病床数 500床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 19床
NICU 病床数 0床
新生児病床数(NICU を除く) 3床

NICU としての認定 あり、(なし)

平均小児科外来数 79.1人/日 + 予防接種患者 8.4
平均時間外外来数 5.6人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 1,210人/年
年間のべ入院患者数 7,668人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 534人/年

年間分娩数 686人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 43人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 0人/年
年間呼吸管理患者数 12人/年 (d-PAP 含)

病院運営の保育所併設の有無 (あり、なし)
ありの場合、24 時間対応の有無 あり、(なし)
なしの場合、近隣の保育所の有無 (あり、なし)
その 24 時間対応の有無 あり、(なし)
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 1.5 ヶ月
産後 2 ヶ月
育児休暇の期間 最長 12 ヶ月

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

× 1

地方学会

× 4

町立中標津病院

所属メンバー

- ・富沢一浩（昭和57年卒）
- ・佳久哲宜（平成7年卒）

専門外来

病院全体の医師数 20人
小児科医師数 2人 (うち非常勤 人)

病院全体の病床数 199床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 8床
NICU 病床数 0床
新生児病床数(NICU を除く) 2床

NICU としての認定 あり、(なし)

平均小児科外来数 80人/日
平均時間外外来数 40人/週 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 400人/年
年間のべ入院患者数 2,700人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 人/年

年間分娩数 220人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 人/年
年間呼吸管理患者数 人/年

病院運営の保育所併設の有無 (あり、なし)
ありの場合、24 時間対応の有無 あり、(なし)
なしの場合、近隣の保育所の有無 あり、なし
その 24 時間対応の有無 あり、なし
産前・産後休暇の一般的な期間 産前 カ月
産後 カ月
育児休暇の期間 カ月

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし

市立根室病院

所属メンバー

- ・小堤囿雄（診療部長、昭和49年卒）

専門外来

循環器外来

内分泌外来

神経外来

病院全体の医師数 _____ 人
小児科医師数 _____ 1人 (うち非常勤 _____ 人)

病院全体の病床数 _____ 199床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) _____ 11床
NICU 病床数 _____ 床
新生児病床数(NICU を除く) _____ 床

NICU としての認定 _____ あり、なし

平均小児科外来数 _____ 19,360人/日
平均時間外外来数 _____ 人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 _____ 3,192人/年
年間のべ入院患者数 _____ 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 _____ 人/年

年間分娩数 _____ 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 _____ 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 _____ 人/年
年間呼吸管理患者数 _____ 人/年

病院運営の保育所併設の有無 _____ あり、なし
ありの場合、24 時間対応の有無 _____ あり、なし
なしの場合、近隣の保育所の有無 _____ あり、なし
その 24 時間対応の有無 _____ あり、なし
産前・産後休暇の一般的な期間 _____ 産前 _____ カ月
_____ 産後 _____ カ月
育児休暇の期間 _____ カ月

発表論文の詳細

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会

なし